

徳島県

埋蔵文化財センター年報

Vol. 11 1999 年度

2-0-0-0

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



敷地遺跡國司館跡 排出狀況



川端遺跡出土 馬形埴輪



敷地遺跡出土 郡名木簡

はじめに

本書は平成11年度に徳島県埋蔵文化財センターが実施した事業概要をまとめたものであります。

11年度は四国横断自動車道関連事業が増加する一方、平成4年度より行ってきた一般国道192号徳島南環状線関連事業については、用地残件を除いて完了し、前年度に引き続き、受託事業の変換期にあたっております。当センターといたしましては、調査研究に加え、得られた成果を分かり易くかつ効果的に活用するための基盤整備を急ぐ必要があると考えております。

さて本年度事業では四国横断自動車道関連調査で古墳の調査が数多く実施され、また徳島環状線（国府工区）の調査では、敷地遺跡において国司館と推定される建物群が検出されました。館内の井戸から出土した木簡は、郷里制施行時の阿波国を考えるうえで重要な資料とみられております。さらに阿波国府周辺の景観を復元するうえで重要な成果が得られたものと考えております。

一般公共事業は今後、一定の受託量で推移すると思われますが、これも各時代にわたって重要な成果が得られました。これらについては、可能な限り現地説明会を開催するなど公開に努めているところであります。

関係各位並びに関係機関におかれでは、なお一層の御指導と御協力を賜りますことをお願い申し上げます。

平成12年6月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

理事長 青木武久

目 次

I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要	6	
II 平成11年度事業概要	7	
III 調査事業報告	10	
四国横断自動車道関連発掘調査		
川端馬越古墳群	15	
桧はちまき山遺跡	16	
松高麗谷古墳群	17	
松北山古墳群	18	
勝明寺谷古墳群	19	
西山谷古墳群	20	
試掘調査	21	
閑柱遺跡	金泉寺西古墳群	川端奥郷遺跡
松西谷遺跡	板東塚鼻遺跡	浄土寺遺跡
中内遺跡	助ヶ谷古墳群	袖もぎ古墳群
大谷山田遺跡	小森宮尾神社古墳群	宮ヶ谷古墳群
大代谷遺跡	東口古墳群	日開谷西古墳群
辺露遺跡	日開谷東古墳群	原山古墳群
一般国道192号徳島南環状線関連発掘調査		
延命遺跡	25	
西州津遺跡	27	
東州津遺跡	28	
末石遺跡 中庄東遺跡	29	
一般公共事業関連発掘調査		
大柿遺跡	31	
中庄東遺跡	33	
町口遺跡	35	
石井城ノ内遺跡	37	
観音寺遺跡 敷地遺跡	38	
敷地遺跡	40	
池尻 桜間遺跡	42	
中前川町2丁目遺跡	43	
試掘調査	45	
川端枇杷田遺跡 天神遺跡 観音寺遺跡		

圃場整備関連調査	47
別所遺跡 東原遺跡 吉友遺跡 切幡城跡	
大郷領遺跡 七見遺跡 平松遺跡	
楠ヶ浦遺跡 小島遺跡 大里前田遺跡	
IV 整理事業報告	51
V 埋蔵文化財センターの活動	53
VI 受贈図書	57

例　　言

- 1 本書は財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成11年度事業をまとめた年報である。
- 2 Ⅲ調査事業報告に関する地形図は国土地理院発行1/50,000地形図を転載したものであり、各図に図幅名を記した。
- 3 Ⅲ調査事業報告の概要是各担当が執筆し、その責を文末に記した。
- 4 本書の編集は菅原 大北が行った。

平成11年度 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの組織

行 使

理事長	
青木 武久	県教育長
副理事長	
河口 浩三	県教育次長
出羽 秀樹	県教育次長
田上 勝義	県教育次長
専務理事	
寒川 光明	
常務理事	
細川 靖夫	県教育委員会参事
理 事	
賀川 浩明	県教育委員会総務
松本 竹生	県教育委員会教育
蛭名 喜之	県教育委員会義務
松村 通治	県教育委員会高校
新聞 英毅	県教育委員会文化
桐本 義春	県土木部監理課長
監 事	
林 裕次郎	県副出納長
平尾 俊安	県教育委員会生組

三

所長	
寒川光明	
事務局長	
細川靖夫	
総務課	
次長兼総務課長	井後伸一
主 事	集堂正士
主 事	佐藤真紀
技術主任	小田祥雄 <small>(鹿島県土木技術協会派)</small>
臨時補助員	福本桂子 坂東美穂
	川村昌子 作田加奈子
調査課	
調査課長	菅原康夫
調査第一係長	市村みね
研究員	前川直江 大山昌敏 上窪昭英 宮本格 谷恒二 大石修一 光山忠幸 加藤公夫 河野啓介 相原聰 佐野耕市 和泉一三 喜枝秀行 小泉信司 藤川智之 原芳伸 田川憲
主査兼調査第二係長	武市文雄
研究員	橋本守正 宮谷純弘 佐藤治史 中島博子 橋本寿夫 喜田美智代 槌谷久代 下内新吾 妹尾健司 早瀬隆人 佐藤宏明 元木浩司 斎浩市 松田幸 北條靖 氏家敏之 大橋育順 烏田豊彰 幸泉満夫



整理普及課

整理普及課長 烏巡 賢二

整理係長 西谷 泰幸

研究員 大谷 勝子 野村 雅子

岡山真知子 烏野 美子

中村 好江 斎藤 剛

高柳 孝治 泊 強

横田 温生 下窪 光俊

石尾 和仁 金森 映人

日下 正剛 福良 育

久保脇美朗 栗林 誠治

近藤 玲 大北 和美

植地 岳彦

普及係長 高見喜美男

臨時補助員 高尾 准子 高本 順子

I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要

1 設立の目的

財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、徳島県内における埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、文化財の保護意識の啓発、普及を図り、もって地域文化の振興に寄与することを目的とする。

2 事業の内容

- (1) 埋蔵文化財の調査及び研究に関する事業
- (2) 出土した文化財の整理及び保存に関する事業
- (3) 埋蔵文化財の活用及び保護意識の啓発、普及に関する事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

3 設立年月日

平成元年4月1日

4 出資者

徳島県

5 基本財産

10,000千円

6 事務所所在地

徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2

II 平成11年度事業概要

1 理事会の開催

第41回臨時理事会

開催日 平成11年4月1日

議案 役員の選任について

第42回通常理事会

開催日 平成11年6月16日

議案 平成10年度事業報告について

平成10年度事業収支決算について

平成10年度未処分剩余金の処理について

第43回通常理事会

開催日 平成12年3月15日

議案 平成11年度事業収支予算の補正について

平成12年度事業計画について

平成12年度収支予算案について

その他

「公益法人の設立許可及び指導監督基準の運営方針」に基づく「徳島県埋蔵文化財センター理事会等の構成メンバーの見直しについて」

2 事業の実施状況について

(1) 埋蔵文化財発掘調査

徳島県から委託を受け、次の発掘調査を行った。

- ① 四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査で、24遺跡2,440m²の発掘調査と5,765m²の試掘調査を実施した。
- ② 一般国道192号線徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡2,730m²の発掘調査を実施した。
- ③ 一般国道32号井川IC間連改良工事に伴う埋蔵文化財調査で、2遺跡6,380m²の発掘調査と230m²の試掘調査を実施した。
- ④ 加茂第一地区堤防の事業に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡2,360m²の試掘調査を実施した。
- ⑤ 加茂第一地区堤防工事に伴う埋蔵文化財調査で、1遺跡5,990m²の発掘調査を実施した。
- ⑥ 徳島県事業に伴う埋蔵文化財発掘調査建設事業の工事予定箇所で、337,943m²の調査を実施した。
徳島環状線（国府工区）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、30,322m²の発掘調査を実施した。
文学館、書道美術館（仮称）整備事業に伴う埋蔵文化財調査で、2,000m²の発掘調査を実施した。
県代行緊急地方道路整備事業（町道光下新町線）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、3,271

m²の発掘調査と112m²の試掘調査を実施した。

河川局部改良事業（大里川善藏川）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査で、230m²の試掘調査を実施した。

道路改良事業（宮川内牛島停車場線）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、3,813m²の発掘調査を実施した。

道路改良事業（宮川内牛島停車場線）関連埋蔵文化財調査で、290m²の試掘調査を実施した。
緊急地方道路整備事業（出口太刀野線）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査で、2,180m²の発掘調査を実施した。

県営住宅（石井曾我团地）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、455m²の発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（切幡地区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m²の発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（立江柳淵地区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m²の発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（富岡東部地区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m²の発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（海部川左岸地区大里工区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m²の発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（岩倉工区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m²の発掘調査を実施した。

県営圃場整備事業（平松工区）に伴う埋蔵文化財調査で、500m²の発掘調査を実施した。

農林総合整備事業（集落型）に伴う埋蔵文化財調査で、570m²の発掘調査を実施した。

道路改良事業（徳島引田線）建設工事に伴う埋蔵文化財試掘調査で、1,770m²の試掘調査を実施した。

県営圃場整備（徳島市）関連で、300,000m²の遺跡精密分布調査を実施した。

(2) 出土埋蔵文化財整理

徳島県から委託を受け、次の出土埋蔵文化財の整理業務を行った。

- ① 四国縦貫自動車道建設工事関連で、出土埋蔵文化財1,120箱の整理業務を実施した。
- ② 一般国道192号徳島南環状線建設工事関連で、出土埋蔵文化財840箱の整理業務を実施した。
- ③ 徳島県等の事業関連出土埋蔵文化財整理

阿波池田公共職業安定所新築工事関連で、出土埋蔵文化財22箱の整理業務を実施した。

企業局総合管理事務所建設工事関連で、出土埋蔵文化財169箱の整理業務を実施した。

西部テクノスクール建設工事関連で、出土埋蔵文化財280箱の整理業務を実施した。

徳島保健所改築工事関連で、出土埋蔵文化財140箱の整理業務を実施した。

県営住宅（石井曾我团地）建設工事関連で、出土埋蔵文化財105箱の整理業務を実施した。

中央構造線断層帯調査関連で、出土埋蔵文化財62箱の整理用務を実施した。

城西、名西高校施設新築工事関連で、出土埋蔵文化財45箱の整理業務を実施した。

(3) 出土品保存活用検索システム整備事業

県の「緊急雇用対策」をうけて、出土埋蔵文化財の効率的な収蔵管理と社会教育、学校教育の場で広く有効活用が図られることを目的に、「出土品保存活用検索システム」を実施した。

検索システム構築

収蔵庫内遺物整理

(4) 発掘調査報告書の発刊

鮎喰遺跡 石井遺跡（城西、名西高校施設新築工事に伴う発掘調査）

田上遺跡(Ⅰ) 田上遺跡(Ⅱ) 田上遺跡(Ⅲ)（四国縦貫自動車道建設工事に伴う発掘調査）

円通寺遺跡（同 上）

坊 須賀 八幡 井内 末遺跡（同 上）

金泉寺遺跡 川端遺跡（中央構造線断層帯調査に伴う発掘調査）

新蔵町1丁目遺跡（企業局総合管理事務所建設工事に伴う発掘調査）

新蔵町3丁目遺跡（徳島保健所改築工事に伴う発掘調査）

マチ遺跡（阿波池田公共職業安定所新築工事に伴う発掘調査）

(5) 普及、啓発活動

- ① 埋蔵文化財速報展「1999発掘とくしま」を開催した。
- ② 発掘調査成果報告会を実施した。
- ③ 徳島市敷地遺跡他で、現地説明会・現地見学会等を実施した。
- ④ 市町村埋蔵文化財担当職員研修会を開催した。

3 収支決算報告

財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成11年度収支決算は次のとおりである。

(1) 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 基本財産運用収入	12,000	2,288	288	
2 事業収入	1,879,475,000	1,879,475,750	750	
3 雑収入	637,000	636,710	△290	
4 繰越金	4,585,000	4,585,488	488	
合 計	1,884,709,000	1,884,710,236	1,236	

(2) 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 事業費	1,749,045,000	1,749,040,585	△4,415	
2 管理費	92,121,000	86,892,866	△5,228,134	
3 その他支出	3,963,000	3,962,799	△201	
4 消費税	39,580,000	39,579,500	△500	
合 計	1,844,709,000	1,879,475,750	△5,233,250	

III 調査事業報告

平成11年度は、徳島県と同年4月1日付けで締結した業務委託契約書に基づいて事業を実施した。四国横断自動車道(板野～鳴門)関連調査は、本調査の有無を確認するための試掘調査が大部分であったが、全区間で調査を展開した。板野町川端馬越古墳群では長方形プランをもつ6世紀末の横穴式石室2基が検出された。基底部が遺存するのみで、石室高 上部構造 墳丘規模等は不明であるが、前年度調査の中谷山古墳群(Ⅰ)の横穴式石室ともあわせて、矮小化が目立つ。規模の上ではこの時期の小型穴式石室墓と大きく変わるものではない。

桧はちまき山遺跡 桧高麗谷古墳 桧北山古墳群の所在する丘陵一帯は、後期古墳を主体とする鉢巻山古墳群として知られている。大型宅地開発に伴い、平成3年度から5年度に鳴門市教育委員会が調査を実施し、縄文時代後期の土坑、弥生時代中期の竪穴住居、弥生時代終末期の竪穴式石室墓などが検出されている(鳴門市教育委員会編『鳴門市埋蔵文化財調査報告書1 桧はちまき山遺跡 桧丸山遺跡 桧寺前川遺跡』1994)。今回の調査地点はその北側にある。桧はちまき山遺跡では標高60～80mの尾根上に土坑、竪穴住居2棟が検出された。

桧高麗谷古墳群では弥生時代終末期の竪穴式石室墓と壺棺墓が検出された。砂岩角礫を用いた石室墓は上板町安楽寺谷1号墓にみられ(徳島県教育委員会 財団法人徳島県埋蔵文化財センター 日本道路公團『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告13』1995)、配石をもつ壺棺も吉野川下流域では広範に分布する形態の一つである。桧北山古墳群で検出された箱式石棺に副葬された刀子は、鳴門市宝幢寺3号墳に類似がある(徳島県教育委員会『中内遺跡－県道バイパス鳴門 池田線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概要』1981)。

勝明寺谷古墳群 助ヶ谷古墳群は鳴門市大麻町池谷に所在する。この地点は4世紀の前方後円墳である宝幢寺1号墳(県指定史跡 名称は宝幢寺古墳)以降、5世紀の前方後円墳2基を含む11基の古墳群から構成される天河別神社古墳群(県指定史跡)、馬形埴輪 円筒埴輪をもつかきづか古墳群、三角板銅留短甲を副葬した袖もぎ古墳群など中期古墳が集中する古墳群を形成している。いずれも主体部は流失していたが、5世紀後半の円筒埴輪を配置する円墳が確認された。

一般国道192号徳島南環状線関連調査では延命遺跡用地の残件箇所を調査し、奈良 鎌倉時代の水田を確認した。平成3年度から実施してきた当該事業は一部の用地を除き、今回の調査をもって完了した。

徳島環状線(国府工区)では国司館とみられる遺構が敷地遺跡の2地点で検出された。このうち阿波国府推定地の北方600mに位置する敷地遺跡(第一分割)では「口」の字状に配置された掘立柱建物群の建て替えが確認された。有廂建物 中庭 高床倉庫から構成されるが、宅地内の井戸から阿波国七郡(阿波 麻植 板野 名方 美馬 勝浦 那賀)のうち、四郡名を表記した木簡が出土している。井戸の廃絶時期は出土土器から8世紀第二四半期とみられ、木簡もこの時期に廃棄されたものである。国府の所在する名方郡や吉野川中流域の阿波 美馬郡名が記載されていない点で、本木簡の意味するところについては、今後さまざまな解釈を呼ぶものとみられるが、文字資料としての価値は極めて高いといえるだろう。郡名表記では勝浦と那賀郡が併記されている点が重要である。特に勝浦は文字表記としては最古の例となった。長屋王木簡には「阿波國長郡波羅里黑米五斗」「長郡和社里白米五斗」、平城京左京

三条二坊跡出土木簡には「阿波國長郡坂野里百濟部伎弥麻呂」の記載があり、いずれも長郡の表記がみえる。これらは和銅四年（711）から和銅七年（714）のものとみられている。一方、天平七年（735）の年紀をもつ平城宮木簡では「阿波國那賀郡武芸駅子戸主生部東方戸同部毛人調堅魚六斤 天平七年十月」、平城京二条大路跡出土木簡では「阿波國那賀郡播羅郷海部里戸主安曇部大鷦戸同部若麻呂調恩取鮑六斤 天平七年十月」のように那賀郡に表記の変更がみられる。

国造本紀にみえる長国造の支配領域である勝浦・那賀および海部川流域の地域は大宝令の時点で長郡になるが、靈龜元年（715）とされる郷里制の施行に伴って、この頃南部域が那賀郡、北部域が勝浦郡に分割される。今回出土した資料は和銅六年、政府の郡名表記変更指示や郷里制の施行直後における郡域分割の事実を示す好資料と評価することができる。

敷地遺跡（第二分割）では同様の掘立柱建物群のほか、赤色塗彩土器 墨書き土器 刻書き土器 木簡 松脂 木製祭祀具 土馬 土鈴など多様な遺物が出土している。

これまでの阿波國府城関連の発掘調査の結果では数町四方の規模をもつ国府城および府内に計画的な官衙群・官人居宅等の配列は指摘できない。また府城内での官衙建物は9世紀中葉以前に遡るものは確認されていない。今回のように国府推定城から離れた微高地上に点在する8世紀代の建物群は、徳島市矢野遺跡（せんだん乃木地点）にもみられるが（徳島市教育委員会『徳島市埋蔵文化財発掘調査概要』8 1998）、阿波國府が国庁を中心として、四方に延びる直線道路を軸に官衙が広範囲に点在する構造であったことをうかがわせる。

一般公共事業に伴う調査では脇町別所遺跡で弥生時代後期から中世にかけての集落が調査された。弥生時代遺構では自然流路から打削・研磨された蛇紋岩が検出された。当該時期の蛇紋岩を用いた攻玉遺跡は三好町稻持遺跡、徳島市矢野遺跡があり、別所遺跡周辺では脇町押原遺跡で块状勾玉が出土している（菅原康夫『吉野川上流の勾玉製作』『考古学と技術』同志社大学考古学シリーズIV 1988）。別所遺跡での攻玉の実態把握は今後の課題であるが、吉野川中流域において弥生集落の具体相が明らかになってきた意義は大きい。

吉野町町口遺跡では鎌倉・室町時代の方形区画溝で連続する屋敷地（石尾和仁「中世低地集落の歴史的位置」「中世集落と灌漑」大和古中近研究会 1999では周溝屋敷地と呼ぶ）が検出された。同様の例は板野町黒谷川宮ノ前遺跡・古城遺跡、徳島市中島田遺跡などにもみられる。徳島平野に形成された中世集落においては通有の景観であったと思われるが、今まで地割りの継続が確認されるため、屋敷地の規模と集落の一定の範囲把握が可能になってきている。

徳島城下町の調査は平成7年度から継続しており、陶磁器関係を中心に資料の蓄積が進んできた。安政年間作成の「御山下島分絵図 徳島」によれば中級・下級藩士の居宅地にあたる徳島市中前川町2丁目遺跡では今回初めて、地方知行の一端を示す荷札木簡が出土している。

このほか、池田町西州津遺跡、三加茂町末石遺跡・中庄東遺跡では時期の特定なお課題を残すが、おむね平安時代を中心とする土壙墓群が調査された。（菅原）

四国横断自動車道関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	間柱遺跡	板野郡板野町大坂字古田71-1他	90m ² (試掘調査)	H11. 11. 17		なし	なし
2	金泉寺西古墳群	板野郡板野町吹田平山152他	240m ² (試掘調査)	11. 9 1 ~ 11. 9 15		なし	なし
3	川端奥郷遺跡	板野郡板野町川端字東山田40他	415m ² (試掘調査) 400m ² (調査面積)	11. 5 1 ~ 11. 6 .30 11. 9 16~11. 9 .30 11. 11. 9 ~ 11. 11. 11	平安時代	なし	須恵器片
4	川端馬越古墳群	板野郡板野町川端字塔土谷1-28他	200m ² (調査面積)	11. 4 2 ~ 11. 5 .31	○古墳時代	横穴式石室	須恵器 鉄器小片
5	桧西谷遺跡	鳴門市大麻町桧字西谷山18他	230m ² (試掘調査)	11. 11. 1 ~ 11. 11. 30	○弥生時代 古墳時代	なし	弥生土器 須恵器
6	桧はちまき山遺跡	鳴門市大麻町桧字谷山17-1他	400m ² (試掘調査)	11. 9 1 ~ 11. 11. 30	○弥生時代	堅穴式住居	弥生土器 石器
7	桧高麗谷古墳群	鳴門市大麻町桧字高麗1他	150m ² (試掘調査) 1,600m ² (調査面積)	11. 11. 1 ~ 12. 1 .31	○弥生時代	土器棺墓 堅穴式石室	弥生土器
8	桧北山古墳群	鳴門市大麻町桧字丸山26-17他	430m ² (試掘調査)	11. 11. 16 ~ 12. 1 .14	○古墳時代	堅穴式石室 箱式石棺	直刀 刀子
9	板東塚鼻遺跡	鳴門市大麻町板東字塚鼻95-2他	1,010m ² (試掘調査)	12. 2 1 ~ 12. 2 .29	弥生時代 古墳時代	土師質土器	なし
10	淨土寺遺跡	鳴門市大麻町板東字淨寺7	340m ² (試掘調査)	12. 3 1 ~ 12. 3 .31	○鎌倉時代	土坑 柱穴	土師質土器 須恵器 瓦器 鐘 磁器 瓦 鐵製品
11	中内遺跡	鳴門市大麻町池谷字中内56他	270m ² (試掘調査)	12. 2 1 ~ 12. 2 .29	古墳時代	なし	土師質土器 須恵器
12	勝明寺谷古墳群	鳴門市大麻町池谷字日開台1他	250m ² (試掘調査)	12. 1 16 ~ 12. 3 .31	○古墳時代	なし	円筒埴輪 朝顔形埴輪
13	助ヶ谷古墳群	鳴門市大麻町池谷字助ヶ谷39他	500m ² (試掘調査)	11. 6 1 ~ 11. 6 .30 11. 9 1 ~ 11. 10 .31	○古墳時代	溝状造構	埴輪片
14	袖もぎ古墳群	鳴門市大麻町池谷字東谷25他	80m ² (試掘調査)	11. 7 1 ~ 11. 8 .31	古墳時代	なし	土師器片
15	西山谷古墳群	鳴門市大麻町大谷字西山谷15-2他	240m ² (調査面積)	12. 3 1 ~ 12. 3 .31	○古墳時代	箱式石棺	鉄劍片
16	大谷山田遺跡	鳴門市大麻町大谷字園原34他	190m ² (試掘調査)	12. 3 1 ~ 12. 3 .31	○古墳時代	なし	土師器 須恵器
17	小森宮尾神社古墳群	鳴門市大麻町池田字タキケ谷51他	190m ² (試掘調査)	11. 7 1 ~ 11. 8 .31		なし	なし
18	宮ヶ谷古墳群	鳴門市大麻町宮ヶ谷63他	80m ² (試掘調査)	11. 10. 1 ~ 11. 11. 15		なし	なし
19	大代谷遺跡	鳴門市大津町大代字山田1008他	100m ² (試掘調査)	12. 2 1 ~ 12. 2 .29	近代	暗渠	なし
20	東口古墳群	鳴門市大津町大代字東口1568-2他	90m ² (試掘調査)	12. 3 1 ~ 12. 3 .31		なし	なし
21	日開谷西古墳群	鳴門市大津町大代字日開谷1484-2他	1,035m ² (調査面積)	12. 3 1 ~ 12. 3 .31			
22	辺露遺跡	鳴門市大津町大代字辺露832他	550m ² (試掘調査)	12. 1 1 ~ 12. 1 .31	古墳時代	なし	土師器 製塙土器
23	日開谷東古墳群	鳴門市大津町大代字日開谷1360他	70m ² (試掘調査)	11. 12. 1 ~ 11. 12. 31		なし	なし
24	原山古墳群	鳴門市大麻町大代字原山	90m ² (試掘調査)	11. 6 1 ~ 11. 7 .31		なし	なし

○主体となる時期

一般国道192号徳島南環状線関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	延命遺跡 (徳島南環状道 路改築事業)	徳島市国府町延命字野神332他	2,730m ² (調査面積) 3,260m ² (延べ面積)	11. 4 1 ~ 11. 7 .31	奈良時代 平安時代	水田 溝 畦畔	土師器 須恵器 磁 器 瓦器

2	西津遺跡 (一般国道32号 綾井川IC周辺 改良事業)	三好郡池田町字 州津端1256番 地他	6,080m ² (調査面積) 150m ² (試掘面積)	11.4.6~12.3.15	弥生時代 平安時代 ○鎌倉時代 室町時代	堅穴居 土坑・柱穴・ 自然路・土壙	弥生土器 土師質土 器・須恵質土 器・磁器 石器
3	東州遺跡 (一般国道32号 綾井川IC周辺 改良事業)	三好郡池田町字 州津西／久保 341-1他	300m ² (調査面積) 80m ² (試掘面積)	11.4.6~11.5.31	○弥生時代 古墳時代 江戸時代	溝状遺構 土坑・柱穴	弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器
4	末石遺跡 (加茂第一地区 堤防事業)	三好郡三加茂町 西庄字末石600 他	5,990m ² (調査面積)	11.4.2~11.8.31	○弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 ○奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代	堅穴居 溝・土坑 柱穴・自然 流路・土壙 墓	弥生土器 土師器 須恵器・土 師質土器 陶磁器 石器
5	末石遺跡・中庄遺跡 (加茂第一地区 堤防事業)	三好郡三加茂町 中庄120-1他	2,360m ² (試掘調査)	11.6.1~11.8.31	○弥生時代 古墳時代 奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 室町時代	溝・土坑 柱穴	弥生土器 土師器 須恵器・土 師質土器 陶磁器 瓦 鉄製品

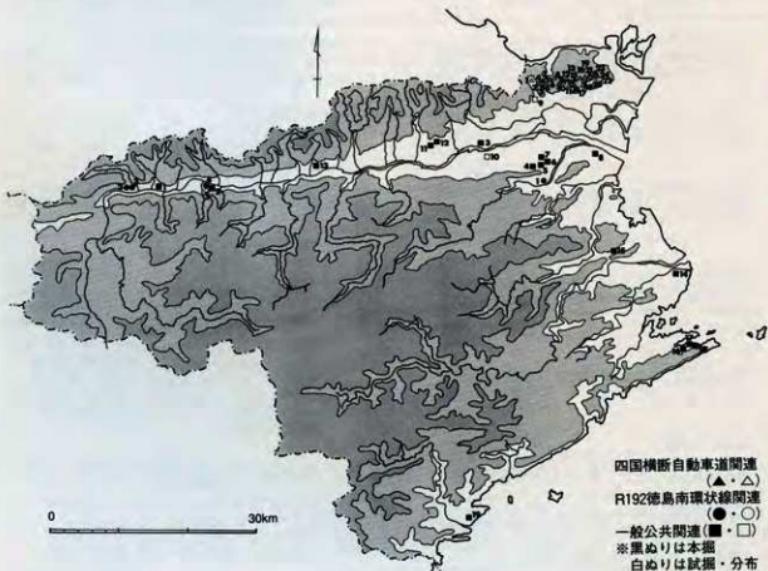
○主体となる時期

一般公共事業関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	大柿遺跡 (緊急道路整備事業 一町道尤下新町線)	三好郡三好町登 間字船戸2276他	3,271m ² (調査面積) 11,232m ² (延べ面積) 112m ² (試掘面積)	10.10.1~11.3.31	○弥生時代 平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	溝・水田 土坑・柱穴 土壙墓	弥生土器 土師質土 器・陶磁器 石器
2	中庄・東遺跡 (緊急地方道路整備 事業一出元太刀堀線)	三好郡三加茂町 中庄434-1他	2,180m ² (調査面積) 6,102m ² (延べ面積)	11.4.2~12.3.31	古墳時代 奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物 溝・水田 土坑・集 石遺構	土師器 須恵器・土 師質土器 瓦器 陶磁器 瓦 鉄片
3	町口遺跡 (道路改築事業一 宮内牛島停車場線)	板野郡吉野町西 条字町口33-3他	3,813m ² (調査面積) 7,626m ² (延べ面積)	11.4.6~12.3.31	○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代 江戸時代	掘立柱建物 溝・井戸・土 坑・柱穴・自 然流路・土壙 墓・集石遺構	土師質土器 須恵器・石 器・陶磁器・石 製品・金属製品 銭貨
4	石井城／内遺跡 (現住宅一石井曾 我田地一建設工事)	名西郡石井町石 井字城ノ内381-1	455m ² (調査面積) 2,503m ² (延べ面積)	11.11.1~12.2.29	○古墳時代 室町時代 安土桃山 江戸時代	溝・水田 土坑・柱穴	土師器 須恵器 陶 磁器・石器 鉄製品 銅製品 木製品 錢貨
5	觀音寺遺跡・敷地遺跡 (道路改築事業一 徳島県坂出市工区)	徳島市国府町敷 地60-4他	觀音寺遺跡 2,777m ² (調査面積) 敷地遺跡 6,719m ² (調査面積) ・延べ面積21,848m ²	11.4.6~12.3.20	○古墳時代 ○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	掘立柱建物 堅穴居 溝・水田 土坑・土 壙墓	土師器 須恵器 黑 色土器 木製品 木削器 青銅器 獸骨 瓦
6	敷地遺跡 (道路改築事業一 徳島県坂出市工区)	徳島市国府町敷 地350-1他	6,308m ² (調査面積) 24,818m ² (延べ面積)	11.4.6~12.3.20	○弥生時代 ○古墳時代 奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	掘立柱建物 堅穴居 溝・井戸 土坑・自 然流路・集 石土坑	弥生土器 土師器 黑色土器 瓦器 国産陶磁 器・石製品 鉄器 木製品 錬瓦
7	池尻・桜岡遺跡 (道路改築事業一 徳島県坂出市工区)	徳島市国府町池 尻316-1他	4,518m ² (調査面積) 18,072m ² (延べ面積)	11.4.6~12.3.20	○弥生時代 ○古墳時代 ○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物 溝・土坑	弥生土器 土師器 黑色土器 瓦器 緑釉陶 器・石製品 鉄器 獸骨
8	中前川町2丁目遺跡 (文字通り・普段着取 扱い事業)	徳島市中前川町 2丁目21他	2,000m ² (調査面積) 4,000m ² (延べ面積)	11.8.1~12.3.31	○江戸時代	掘立柱建物 溝・池状 遺構・土坑	陶磁器 瓦 木製品 金屬製品 石製品
9	川端枇杷田遺跡 (道路改築事業一 徳島引佐線)	板野郡板野町川 端字川敷25他	1,770m ² (試掘調査)	11.12.1~12.2.29		自然流路	土師器片
10	天神遺跡 (道路改築事業一 宮内牛島停車場線)	麻植郡鳴高町牛 字天神595-1他	290m ² (試掘調査)	11.10.1~11.10.31		なし	陶器片 瓦 鉄製品

11	東原遺跡 (原野開拓地切削工区) 吉友遺跡 (原野開拓地切削工区)	阿波郡市場町大字切幡字東原17他 阿波郡市場町大字切幡字吉友24他	500m ² (調査面積)	11.10.1 ~ 11.11.30	○弥生時代	土坑 柱穴	縄文土器 弥生土器 土師質土器 石器
12	切幡城跡 (原野開拓地切削工区)	阿波郡市場町大字切幡字神木30他	570m ² (調査面積)	11.8.1 ~ 11.9.30	○江戸時代	溝状遺構 井戸	土師質土器 陶磁器 瓦
13	別所遺跡 (原野開拓地切削工区)	美馬郡脇町字京免2564他	500m ² (調査面積)	11.12.1 ~ 12.2.18	○弥生時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代	堅穴住居 溝 土坑 柱穴 自然遺跡	弥生土器 土師質土 器片 須恵器片 石 器
14	七見遺跡 (原野開拓整備事業 一富岡東部地区)	阿南市七見町上浜田19他	500m ² (調査面積)	11.10.1 ~ 11.11.30	弥生時代 平安時代 鎌倉時代	溝 柱穴	土師質土器片 須恵 器片 陶磁器片 瓦
15	大鄭領遺跡 (原野開拓整備事業 一立江柳洞工区)	小松島市鷲洞町字大鄭領70他	500m ² (調査面積)	12.2.1 ~ 12.3.31	江戸時代	なし	陶磁器 土鍋
16	平松遺跡 (原野開拓整備事業 一帯東部地区平松工区)	阿南市椿町平松西側5他	400m ² (調査面積)	11.9.1 ~ 11.10.31	○弥生時代 鎌倉時代 室町時代	溝 土坑 柱穴	弥生土器片 土師質 土器 須恵器片 陶磁器 瓦 器 石器 北宋銭
17	楠ヶ浦遺跡 (原野開拓整備事業 一帯東部地区平松工区)	阿南市椿町楠ヶ浦2他	50m ² (調査面積)	11.9.1 ~ 11.10.31		なし	なし
18	小島遺跡 (原野開拓整備事業 一帯東部地区平松工区)	阿南市椿町小島9-3他	50m ² (調査面積)	11.9.1 ~ 11.10.31		なし	土師質土器片
19	大里前田遺跡 (原野開拓整備事業 伴う河川局部改良事業)	海部郡海南町大里字前田52他	500m ² (調査面積)	10.11.1 ~ 11.3.31	江戸時代	土坑 柱穴	土師質土器 陶磁器

◎主体となる時期



発掘調査地点

かわ ばた うま ごし 川 端 馬 越 古 墳 群

所在地 板野郡板野町川端字唐土谷3-28他

調査期間 1999年4月2日～5月31日

担当者 下内 佐藤

調査概要 阿讚山脈南西斜面の標高約53～87mの尾根上に立地する。現状は山林である。板野郡板野町の阿讚山脈南斜面の低丘陵には古墳時代に多くの古墳が築造されており、中谷山古墳群、川端奥郷古墳群、愛宕山古墳、諏訪神社古墳、谷口山古墳群、熊野神社古墳群、極楽寺古墳群、鉢巻山古墳群、檜高麗谷古墳群等、多くの遺跡が存在している。

今回の調査では、前年度の試掘成果から、南西斜面(200m²)を調査対象区とした。調査の結果、削平を受けてはいるが、石室2基が検出された。1号墳(標高約65m)は、床石の一部が残っているのみで、遺存部は長軸150cm、短軸90cmを計る。床部の幅から推測すると横穴式石室であると考えられる。主軸方向は北北西である。2号墳(標高約73m)は羨道部を伴う左片袖式の横穴式石室である。玄室の床石は一部が残っており、二段になっていた形跡がある。側壁部は基底部一段目がほぼ残り左袖部を持つ。玄室遺存部の長軸は250cm、短軸は90cmを計る。羨道部は、右側側壁の一段目約100cmが残っている。主軸方向は、北北西である。遺物総点数は50点。鉄釘、鐵鎌等の鉄器片が1号墳の覆土から22点、2号墳の覆土から25点、須恵器片が2号墳の覆土から2点出土した。また、調査区南西部斜面からは若干の須恵器片が出土している。出土遺物点数が少ないため築造時期の特定は難しいが、おおむね、6世紀末と想定される。

(下内)



1 調査地点の位置 (川島・徳島)



2 1号墳 検出状況



3 2号墳 検出状況

ひのき 桧はしまき山遺跡

所在地 鳴門市大麻町桧字西谷山17-1他

調査期間 1999年9月1日~11月30日

担当者 下内 佐藤

調査概要

調査対象地は、阿波山脈南斜面の標高約58~87mにある細長い尾根で、北から南への傾斜面と西から東への傾斜面に大きく分かれ。現状は山林である。本調査区に隣接する地区は、平成3年度に鳴門市教育委員会によって発掘調査が行われ、弥生時代中期の高地性集落が確認されている。よって、本調査区にも同時期の遺跡が存在する可能性が高いと考えられ、試掘調査を実施した。

調査の結果、東斜面の標高約75mの地点、西斜面の標高約61mの地点で弥生時代の住居跡と思われる遺構が検出された。半分近くは削平を受けているが、一部の円形プランが確認できる。弥生土器片が2ヶ所の住居跡の周辺を中心に比較的まとまって検出された。小片が多く器種の特定は難しいが、いずれも弥生時代中期末から後期初頭のものと思われる。また、東斜面からサヌカイト片やサヌカイト製の石鏃が出土している。

まとめ

調査の結果、2棟の弥生時代の住居跡が確認されたが、西斜面、東斜面には他にも弥生土器片がまとまって出土した地点がある。炭化物混じりの土層の状況もあわせて考えると、これらの地点にも住居跡等の遺構が存在する可能性が高い。また、本調査区の西側に隣接する谷間からは、本調査区から流れ込んだと思われる同時期の遺物が多く出土している。これらのことから、本調査区には弥生時代の高地性集落が存在する可能性が高く、発掘調査を行う必要がある。(下内)



1 調査地点の位置 (川島・徳島)



2 住居跡 検出状況



3 遺物出土状況

ひのき こう らい だに 桧 高麗 谷 古 墳 群

所在地 鳴門市大麻町桧字高麗 1他

調査期間 1999年11月1日～2000年1月31日

担当者 原 河野

調査概要 調査対象地点は、阿讃山脈南麓の隆起肩状地が中小河川の浸食により形成された標高30～65mの尾根上に位置する。当該地域は古墳の密集地として知られる。現況は山林である。

主な遺構
土器棺墓
ST1002 ほぼ全形の土器棺墓である。墓壙肩部には環状の配石がみられ、上部構造は蓋石を架構していたと思われる。墓壙基底部は丸底で、墓壙内には壺の颈部より上を打ち欠いた土器棺が墓壙いっぱいに正位で安置され、上部は粘土で固定していた。棺身は壺下半部で蓋をしていた。平面は円形を呈し、規模は直径60cm、深度は35cmを測る。土器棺内には遺物はなかった。土器棺は内外面に縱方向のハケ調整が施され、肩部に粗いタキガリが残る。底部はわずかに平底をとどめる。時期的には土器棺の形態から弥生時代終末頃と考えられる。

竪穴式石室墓
ST1005 墳丘はなく、長軸3.6m、短軸2.2mの長方形の墓壙をもつ竪穴式石室墓である。石室底面までの深さは1mを測る。石材は砂岩を用いる。石室規模は現存の内法で長軸2.25m、短軸0.83mで壁体の高さは0.7m程度残存する。長軸方向はN-30°-Wである。石室内外とも出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、ST1002に後続するものと考えられる。

まとめ 調査の結果、土器棺墓2基、竪穴式石室墓4基が出土した。このような在り方は、上板町安楽寺谷墳墓群と類似した様相をみせる。本遺跡においても、一連の集団により同一尾根上において墳墓群が造営されたと考えられ、弥生墓的な埋葬形態から、古墳への変遷がたどれるものとして注目される。(原)



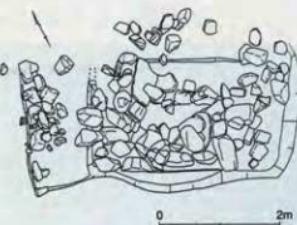
1 調査地点の位置 (川島・徳島)



L=53.80m L=53.80m



2 ST1002 平・断面図



3 ST1005 平面図

ひのき きた やま 桧 北 山 古 墳 群

所在地 命門市大麻町桧字丸山26-17他

調査期間 1999年11月16日～2000年1月14日

担当者 橋本(寿) 橋本(守)

調査概要 調査対象地は、阿讃山脈南麓斜面の標高76～86mにある。調査対象地の東半分は果樹園跡、西半分は山林である。試掘トレンチは岩盤層の和泉層群の砂岩・泥岩層直上まで掘削した。土層は岩盤の風化土、風化土の再堆積層、腐植土の3層に分けられる。岩盤の上位の砂質シルト層には、くさり疊が混じる。

調査区南側は、開墾により削平されていた。

主な遺構 調査区北側で、トレンチ掘削の過程で竪穴式石室跡を持つ墳丘、箱式石棺を検出した。

遺物 墳丘主体部には縦約120cm、横約390cmの竪穴式石室跡と思われる凹地と葺石が認められた。箱式石棺は標高約84.7mの尾根にあり、遺存状況は良好で、石棺外側幅は約60cm×190cm、内幅は石棺東で約33cm、石棺西で約20cm、東幅約165cm、石蓋の下から床上面まで約25cmを測る。石棺の頭位は北から東へ約80°である。床には直刀、刀子が各1振副葬されていた。5世紀後半の構築と考えられる。

以上の遺構・遺物以外は確認されず、本調査の必要性はないと考えられる。

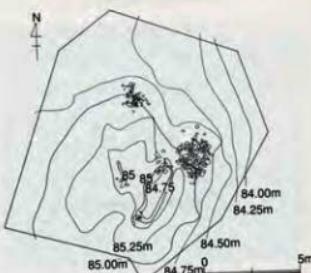
(橋本寿)



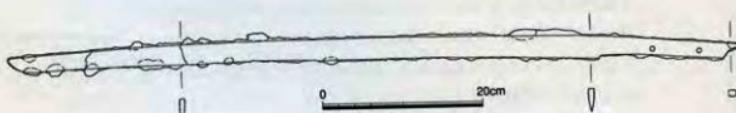
1 調査地点の位置 (川島)



2 箱式石棺 検出状況



3 竪穴式石室跡と葺石



4 出土遺物

勝明寺谷古墳群

所在地 鳴門市大麻町池谷字日開谷1他

調査期間 2000年1月16日～3月31日

担当者 橋本(寿) 橋本(守)

調査概要 調査地は、阿讃山脈の南にのびる支脈の標高約57m～67m上に位置し、周辺には宝幢寺古墳群、中内遺跡、天河別神社古墳群、萩原墳墓群等がある。調査区南の頂上部や尾根部は岩盤の砂岩・泥岩層が露出しており、警鐘台建築の際に大きく削平を受けている。トレントを35ヶ所設定し、必要に応じて拡大・深掘りを行い、遺跡の確認に努めた。土層堆積は下位より岩盤の風化土、風化土の再堆積層、腐植土の3層から成る。埴輪片が多く出土した粘土混じりシルトは炭片を含み、しまりは悪い。標高差の大きい調査区東端には岩盤に亀裂があり、岩盤上位層には地滑りによるものと思われる堆積構造が認められる。

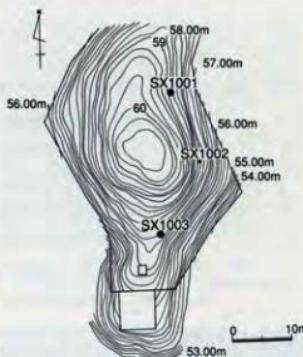
SX1001とSX1003とした地点、標高約57～約60m付近から、多くの埴輪片が集中して出土した。また、SX1002では埴輪の基台部が立った状態で検出されたが、明瞭な埴輪設置跡等の遺構は確認できなかった。

これらの埴輪片は破壊された後、再堆積や地滑り等を繰り返し、移動してきたと推定される。円筒埴輪が多数を占め、朝顔形埴輪も若干出土している。保存状態良好のものには一次調整後のタテハケ、および突帯貼付後のB種ヨコハケ痕が認められるものもあり、5世紀後半の可能性がある。

まとめ 警鐘台鉄塔付近には、古墳の主体部が存在していたと思われるが、削平され原形は留めていない。遺物も埴輪片以外は、検出していない。従って今回の試掘調査範囲において本調査の必要性はないといえる。(橋本寿)



1 調査地点の位置 (徳島)



2 地形平面図



3 遺物出土状況

にし やま だに 西 山 谷 古 墳 群

所 在 地 鳴門市大麻町大谷字西山谷15-2他

調査期間 2000年3月1日～2000年3月31日

担当者 原 河野

調査概要 調査対象地点は、大谷川左岸の阿讃山脈南麓の隆起扇状地が中小河川の先行削刻により、形成された標高54～84mの二段に分かれた尾根上に位置する。現況は山林となっている。

調査地点は、地質的に和泉層群の地層を基盤としており、この和泉層群起源の砂岩・泥岩の疊群で構成される。試掘調査の結果をもとに、未調査部分の継続調査を実施した。墳丘と思われる高まりを確認した後、掘削作業を行った。

3号墳 調査区東側の東西に延びる尾根の東端、標高60m付近に位置する円墳である。墳頂部は削平されており、遺存状態は良くない。現存規模は南北18m、東西14m、高さ2mを測る。墳丘中央部に箱式石棺が構築され、長軸1.43m、短軸0.98m、深度10cmの長方形状の平面プランを呈し、やや東側部分が広くなっている。主軸方向はN-70°-Eである。石材は25cm前後の結晶片岩の板石が用いられ、水銀朱の付着が確認された。基底部には粘土床が一部残存しており、石棺内からは鉄剣片が3点出土した。

まとめ 今回の調査では、箱式石棺をもつ円墳を確認した。時期的には4世紀後半～5世紀初頭頃と思われる。本古墳群の所在する大麻町の阿讃山脈南麓の各尾根上には古墳が数多く築造され、萩原墳墓群 天河別神社古墳群 宝幢寺古墳群 東林院古墳群などの古墳が所在していることから、今後の発掘調査の進行によって、当該期の様相を解明する上で非常に重要な資料と提示することができよう。(原)



1 調査地点の位置（徳島）



2 3号墳 調査前風景（西より）



3 3号墳 主体部全景（西より）

試掘調査

所在地 発掘調査一覧表参照

調査期間 1999年4月3日～2000年3月31日

担当者 相原 河野 小泉 佐野 島田
下内 佐藤 妹尾 谷 真 橋本
原 宮本

閑柱遺跡 調査対象地点は阿讚山脈南麓、大坂谷川によって形成された標高35m前後の扇状地上に位置する。今回は遺跡が存在する可能性の高地形に絞り、試掘調査を実施した。その結果、表土直下は地山であり、昨年度同様、遺構遺物ともに検出されなかった。(下内)

金泉寺西古墳群 調査対象地点は阿讚山脈南麓の標高56～59mの高位段丘面上に位置する。調査区南には中央構造線に派生する断層もみられる。現況は山林となっている。試掘の結果、表土直下は風化した砂礫層で、部分的に火山灰層の堆積もみられる。調査地点は後世の開墾による削平を受けており、遺構遺構は検出されなかった。(橋本寿)

川端奥郷遺跡 調査対象地点は、阿讚山脈南麓の斜面および唐土谷川の低位段丘面上に位置し、標高約23～30mを測る。現況は水田となっている。調査区東部の試掘トレンチにおいて若干の須恵器片および土師器片が出土した。遺物の中には窯壁片や融着した須恵器杯、融解による歪みのある須恵器片などがみられたが、周辺からは窯跡およびその関連遺構、その他の遺構を確認することはできなかった。(下内)

桧西谷遺跡 調査対象地点は、標高25～30mの低位段丘上に位置する。試掘の結果、遺構は全く出土しなかったが、旧谷地形が埋没した自然堆積層より、弥生時代中期頃の土器片が若干出土した。これらの弥生土器片は、調査区東隣の尾根上に位置する桧はしまき山遺跡からの流れ込みと考えられる。(佐野)



1 調査地点の位置 (川島)
①閑柱遺跡



2 調査地点の位置 (川島)
②金泉寺西古墳群 ③川端奥郷遺跡
④桧西谷遺跡



3 桧西谷遺跡 調査前状況

板東塚鼻 遺跡

調査対象地点は阿讃山脈南麓、板東谷川によって形成された標高25m前後の扇状地上に位置する。現況は水田となっている。試掘の結果、調査区中央部で弥生時代後期の土器片が、調査区東部では古墳～平安時代の土器片が若干出土したが、いずれも流れ込みや土中からであり、原位置から遊離した状態での出土であった。また遺構も検出することが出来なかった。(下内)

浄土寺遺跡

調査対象地点は阿讃山脈の南麓にあり、西側を流れる権殿谷川によって形成された扇状地の扇頂部に立地し、東側は浄土寺山という低い尾根が南北に延びている。現況は水田となっている。調査区は、全体的に谷川による押し出しの疊が堆積しているものの、調査区東寄りの山裾部分で土坑、柱穴などの遺構が確認できた。遺構面は東西20m、南北60mにわたって拡がり、さらに南側の未調査部分に延びていることが推測される。今回の試掘調査では、多量の土師質土器や須恵質土器の他、青磁碗や瓦片なども出土した。出土遺物は時期的に13～14世紀頃のものが主体となっていることから、本調査地点には中世の遺構が存在しているものと思われ、地域的な環境から寺院や館跡などの遺構が存在してた可能性がある。(島田)

中内遺跡

阿讃山脈南麓、中内谷川によって形成された扇状地形の標高46m前後の扇尖部に位置する。試掘の結果、開口したほとんどの試掘トレンチにおいて、表土直下は河川の押し出しによる砂礫層の堆積であり、明確な遺構・遺物を確認することはできなかった。(谷)

助ヶ谷 古墳群

調査対象地点は、阿讃山脈南麓の標高61～68mの尾根上に位置する。現況は山林である。試掘の結果、調査区南端の高まり北側裾で古墳の周濠が検出され、周濠内および周辺から埴輪片・須恵器片が出土した。出土遺物からは時期的には古墳時代中期頃と思われるが、墳



4 調査地点の位置（徳島）

⑤板東塚鼻遺跡 ⑥浄土寺遺跡 ⑦中西遺跡
⑧助ヶ谷古墳群 ⑨袖もぎ古墳群



5 浄土寺遺跡 遺物出土状況



6 中内遺跡 土層堆積状況



7 助ヶ谷古墳群 墓輪片出土状況

丘部分と考えられる高まり上において主体部を検出することはできなかった。調査地点の状況から、墳丘上面は後世に削平を受け、主体部は消失しているものと思われる。周濠の他に遺構・遺物は検出されなかった。(原)

袖もぎ 古墳群

調査対象地点は、阿讚山脈南斜面の標高約60~80mの尾根上に位置する。比較的傾斜の緩やかな南部を中心に試掘調査を実施した結果、若干の土師器片が検出されたが、明瞭な遺構の存在は確認できなかった。(下内)

大谷山田 遺跡

阿讚山脈南麓、大谷川右岸の標高15m前後の低位段丘上に位置する。現況は果樹園である。試掘の結果、調査地点の北側の微高地部分において完形品を含む古墳時代後期の須恵器片が40点出土した。今回の試掘トレンチの範囲内では遺構を確認するに至らなかったが、周辺に当該期の遺構が存在する可能性が非常に高いため、本調査実施の必要があると思われる。(谷)

小森宮尾神 社古墳群

阿讚山脈南麓の標高約70~90mの尾根上に位置する。現況は山林となっている。調査区内のほとんどは和泉層群の砂岩・泥岩層が露出していた。中央部に窪地があり、淘汰のよい砂層の堆積がみられたが、遺構・遺物は確認できなかった。(橋本寿)

宮ヶ谷 古墳群

調査対象地点は、阿讚山脈南麓の標高約55~75mの尾根上に位置する。現況は山林となっている。調査区内のほとんどは和泉層群の砂岩・泥岩層が露出していた。試掘の結果、表土直下は岩盤であり、遺構・遺物とともに全く検出されなかった。(橋本寿)

大代谷遺跡

調査対象地点は、大代谷川左岸の標高9m前後の低位段丘上に位置する。現況は果樹園である。当初、調査対象地域は中世の大代城の存在が期待された。試掘の結果、極少量の土師器小片が出土したが、二次的な堆積で原位置は遊離しているものと考えられる。また遺構は明治期のものと思われる暗渠の他は検



8 調査地点の位置 (徳島・鳴門海峡)
⑩大谷山田遺跡 ⑪小森宮尾神社古墳群
⑫宮ヶ谷古墳群



9 大谷山田遺跡 トレンチ拡張部分全景



10 宮ヶ谷古墳群 作業風景



11 大代谷遺跡 調査前風景

出されなかった。(原)

東口古墳群 調査対象地点は、阿讃山脈南麓の標高48～50mの尾根上に位置する。現況は雑木の山林である。尾根筋に沿ってトレンチを開けた結果、腐植土、岩盤風化土、岩盤という堆積状況であった。調査区内のすべてのトレンチにおいて遺構・遺物ともに確認するに至らなかった。本調査区内において遺構は存在しないものと考えられる。(妹尾)

日開谷西古墳群 調査対象地点は、阿讃山脈南麓の標高38～48mの尾根上に位置する。現況は山林となっている。本年度は地形測量を行って、次年度に継続するため、調査範囲を把握するにとどめた。(下内)

辺露遺跡 調査対象地点は、阿讃山脈南斜面の日開谷川により形成された扇状地の扇頂部、標高3～5mに位置する。現況は水田である。調査の結果、調査区南部から600点を超える多量の土器片・製塩土器片などの遺物が出土した。時期的には、古墳時代初頭頃と思われる。遺構は検出されなかつたが、遺物が比較的集中して出土した調査区南側部分を中心に本調査をする必要があると思われる。(下内)

日開谷東古墳群 調査対象地点は、阿讃山脈南麓の標高約25～40mの尾根上に位置する。現況は山林となっている。試掘の結果、調査地点は耕地の開墾による削平を受けており、設定したすべてのトレンチからは遺構・遺物は全く検出することができなかつた。(下内)

原山古墳群 阿讃山脈南麓の標高44～60mの尾根上に立地する。現況は山林である。当初、墳丘状の高まりや砂岩礫の散乱がみられたことから古墳もしくは墳丘墓の存在が期待された。試掘の結果、すべてのトレンチにおいて表土直下に砂岩の風化岩盤層がみられ、本調査区内において遺構・遺物ともに全く検出されなかつた。(島田)



12 調査地点の位置（徳島・鳴門海峡）
⑬大代谷遺跡 ⑭東口古墳群 ⑮日開谷西古墳群
⑯辺露遺跡 ⑰日開谷東古墳群 ⑱原山古墳群



13 辺露遺跡 遺物出土状況



14 日開谷東古墳群 地形測量風景



15 原山古墳群 調査前風景

えん めい 延 命 遺 跡

所 在 地 徳島市国府町延命字野神332他
調査期間 1999年4月2日～1999年7月31日
担当者 宮本 光山 佐野 藤川

調査概要 延命遺跡は、鮎喰川の沖積地上に位置し、標高12～13mをはかる。鮎喰川の堤防のある南東から北西方向に緩やかに傾斜する。昨年度までに周辺の調査地点において、古代から中世にかけての水田面を検出している。

鮎喰川由来の砂礫層の上に水田土壤が堆積し、現在の水田土壤までが継続的に堆積している。水田土壤の間層として、3区では洪水砂の堆積が確認された。洪水砂は粒子の細かい砂で構成され、最も多く遺存するところで50cmの厚みを測る。含まれる遺物から奈良時代と鎌倉時代の二時期のものと考えられる。

洪水砂を受けた水田面 3区では洪水砂に被覆された水田面が検出された。砂を除去することによって畦畔や島状高まりが明確に確認でき、稻株痕や牛の蹄跡も明瞭に識別できる。また、昨年度分もあわせて比較的広い範囲で同時期の水田面の実



1 調査地点の位置 (川島)



2 3区 土層堆積状況



3 洪水砂を受けた水田面 ($S = 1/1250$)

態を把握しえた（以下年次を頭につける）。

水田は10~40m²と小区画のもので、畦畔は幅50cm 高さ5~10cm程度である。東西の大畦畔（98-8区~98-4区）の南側では、南と東から取水し、西側へと排水している。99-3区南の高い位置に取水のための溝があり、98-6区で水口が確認されたが、全般に畦越しに水受を送っている。

以下の層位の水田では、区画がより小型化しており、99-3区では溝を埋めながら水田を造成した過程が認められた。また、大畦畔も古い段階の畦畔に盛土をしながら、築いたものであることも判明した。

洪水砂の除去

99-2区より南では、洪水砂の堆積はみられず、かつ99-3区よりも低レベルなど水田が確認された（98-10区、99-2区）。レベルの低い水田の幅は約15mで、最も低い部分には、南北方向の溝が重複して検出された。出土した遺物は洪水砂内よりも新しい。これらの溝は、現在の五ヶ村用水と重なっており、こうした排水路の確保などを目的に、大量的砂を除去し、また土砂を定期的に浚渫をおこなっていた様子が窺える。

遺 物

土師器 須恵器を中心とし、量は多くはないが、各層位との対応で、水田開発の段階を知る有効な使用であった。

ま と め

この地点での水田開発の状況をまとめると、以下のようになる。まず8世紀（6世紀末）頃、水田開発が開始し、この段階では地形に左右される小区画が中心である。水田は堤防から遠ざかるほど開始時期が早い。奈良時代と鎌倉時代に大きな洪水砂を受ける。北半では復旧は部分的なものにとどまり、多くの水田は一時期廃絶に追い込まれる。南半では水路の確保のため、大規模な復旧作業を行った。鎌倉期の洪水の後には、さらに水路の整備が行われ、幕末段階の絵図に近い状況になったものとみられる。（藤川）



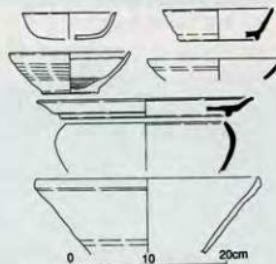
4 1区 第1水田面



5 2区 第1水田面



6 牛の蹄跡



7 出土遺物

にし しゅう づ 西 州 津 遺 跡

所在地 三好郡池田町字州津滝端1256他
 調査期間 1999年4月6日～2000年3月15日
 担当者 中島 大橋

調査概要 本遺跡は、吉野川の北岸に形成された低位段丘上の標高90～100mの部分に位置する。西側は鮎苦谷川によって形成された谷に面しており、南側は吉野川に面している。調査区はこの平坦面の中央部を東西に500m、南北に5mの範囲で設定された。調査区中央部を流れる流路を境に、東の13世紀の集落と西の一級高い平坦面の15世紀の集落に分かれる。

**主な遺構
遺物** 今回の調査で検出された主な遺構としては、土坑253基、柱穴1285基、竪穴住居1軒と調査区の北側を東西に流れる流路が挙げられる。このうち土壙墓と考えられる長軸平均約2m、短軸80cm、深さ60cmの土坑を86基、掘立柱建物を14棟確認した。竪穴住居を含む弥生時代中期の遺構が若干含まれるが、中心となる集落は東の13～14世紀と西の15～16世紀に分かれる。土壙墓は両時期に認められるが、13世紀代の多くは主軸を南北方向にとり、掘立柱建物も南北主軸のものが多い。土壙墓、建物とともに一定のまとまりが見えるが、屋敷境を示す遺構は確認されなかった。流路は幅約2～3m、最深部約1mで、調査区の中央部を東から西に向かって流れしており、この流路からのびている溝状遺構も検出された。

出土遺物は在地産の羽釜、土鍋などが多いが、西村系須恵器椀や甕が出土している。

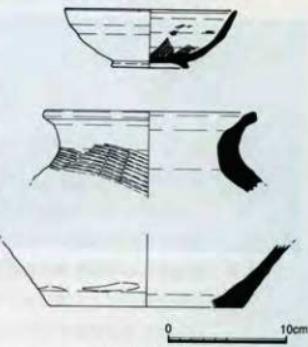
まとめ 吉野川上流域の河岸段丘上において、中世の集落を検出した。そして13～14世紀には、流路の縁ではほぼ同標高の平坦面に集落を形成し、15世紀以降一段上の平坦面への開発が及んでいることが明らかとなった。(大橋)



1 調査地点の位置 (池田)



2 遺構完掘状況



3 出土遺物

ひがし しょう づ 東州津遺跡

所在地 三好郡池田町宇州津西ノ久保341-1他

調査期間 1999年4月2日～5月31日

担当者 島田 妹尾

試掘概要 調査地は吉野川上流域の北岸で、阿讃山脈南麓の標高80～90mの河岸段丘上に位置する。

三好大橋近辺の調査地と鮎苦川東側調査地の下段では土地改めが行われており、遺構遺物は確認できなかった。

上段では標高85m付近で幅約3m、深さ約1.5mの東西方向に走る溝状遺構を検出した。近辺のトレンチからも遺構面が確認できたため、300m²を本調査実施必要範囲とした。また下層は無遺物層であり、黄褐色シルトと粘質土が互層になって、標高84m付近まで続く。

調査概要 遺構面は調査区北東から南西へ向かって緩やかに傾斜している。溝状遺構 SD1001は長さ約20m分が検出され、幅2.7～4.7m、深さ1.4～1.7m、断面はV字形である。遺構の底部付近からは多量の土師質土器の他、大頭大の自然縛が少量出土した。出土土器は壺、甕、鉢などで、弥生時代終末～古墳時代初頭にかけての年代を中心とするものである。これらは完形にちかいものが多く、また一度に多量に遺棄されていることが特徴的である。埋土は薄いレンズ状に自然堆積しており、人為的な埋立の痕跡はみられなかった。

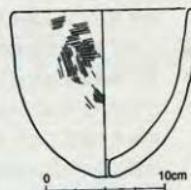
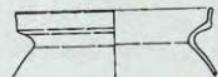
まとめ 今回調査された溝状遺構 SD1001は、その規模と形状から防御を目的として掘削された環濠である可能性が非常に強い。また、土器の出土状況はこの溝によって守られていた集団に何らかの異常が発生したことを物語るものではないかと考えられる。今回の調査結果は弥生～古墳への変革期を考える上で非常に重要な資料となるであろう。(島田)



1 調査地点の位置（池田）



2 SD1001 完掘状況



3 SD1001 出土土器

末石遺跡・中庄東遺跡

所在地 三好郡三加茂町西庄字末石600他
三好郡三加茂町中庄120-1他(試掘)

調査期間 1999年4月2日~1999年8月31日
1999年6月1日~1999年8月31日(試掘)

担当者 原 河野 佐野 宮本

調査概要 本遺跡は吉野川南岸の標高68m前後の河岸段丘縁辺部上に位置する。現況は畑・水田である。今回の調査では弥生~古代~中世にかけての遺構が出土した。なお調査地点が2ヵ所に分かれているため、便宜上、東側調査区を1区、西側調査区を2区と呼称する。

**主な遺構
土壙墓群**

1区において92基を数える多数の土壙墓群が出土した。いずれも長方形の平面形を呈する。各々の規模に微差はあるが、平均的な規模は長軸150cm、短軸90cm、深度80cm程度を測り、直方体の形状を呈する。長軸方向には南北と東西方向がみられ、大半は南北方向である。これらの墓は土葬の形態をとっていたと考えられ、遺骸は残存していなかったが、土壙の規模から屈葬されていたものと考えられる。また土壙墓の中には、棺に遺体が収められていた可能性があるものもみられる。土壙墓内からはほとんど遺物の出土がみられないため、詳細な時期決定は困難であるが、包含層出土遺物や遺構の形態等から古墳時代終末期~古代、7世紀後半~9世紀にかけての時期が考えられる。

**竪穴住居
SB1004** 2区で出土した長方形の平面プランを呈する竪穴住居の1つである。長辺の一方に竈が構築されており、住居北側中央部に位置する。規模は長軸5.54m、短軸4.10m、深度0.25mを測る。主柱は4本である。長方形という特異な平面形状は、より居住空間を確保するためと考えられる。また住居の床面の固さにも若干の違いがあり、竈の位置する中央部付近



1 調査地点の位置 (池田)
①末石遺跡 ②中庄遺跡



2 1区 土壙墓群全景 (西より)



3 2区 遺構出土状況全景 (東より)

はやや踏みしまりが強く固くなっていた。これらは住居の屋内利用区分という観点から、主柱に囲まれた部分は土間（作業空間）であり、主柱と壁の間が寝所であったと推定される。時期的には、出土した須恵器杯等から7世紀後半頃（飛鳥時代）の年代が与えられる。

まどめ

今回の調査では、古代と考えられる遺構面で90基を超える土壙墓群が出土し、墓域（墓地）を形成していることが確認された。県下では単一面（土壙墓群）として捉えられたのは初出である。庶民層の墓については類例が少なく実態が不明な部分が多くあったが、これまで実態が不明であった当該期の庶民の葬送・墓制を解明する上で貴重な資料である。

飛鳥時代の竪穴住居は、長方形という特異な平面形状や寝所の固定が推測でき、竈の位置の固定もみられることなど、これらは屋内の利用区分の固定につながり、やがて一室多目的使用から多室目的別使用へと変化していくことを示唆しているものと考えられる。

また本遺跡の調査により、地形的条件や遺構の出土状況などから、調査地点（2区）の所在する南側の平野部（段丘面）に弥生～古墳時代の集落（遺跡）が形成されていることが明らかになった。今回は三加茂町に広がる平野部に展開する集落の一端を垣間見たに過ぎないが、これまでにも指摘されていた集落の存在を裏付けることができたことは大きな成果であると言えよう。（原）

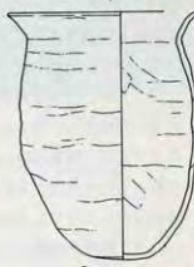
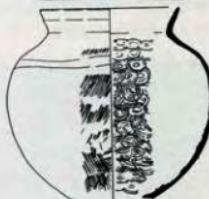
末石遺跡・

中庄東遺跡

調査対象地点は吉野川南岸、標高65m前後の緩やかに北西から南東へ傾斜する沖積地に位置する。今年度、調査が実施された末石遺跡東隣から中庄東遺跡を越え、さらに東へ500mほどの範囲を試掘した。調査の結果一部で整地等による土地改变がみられたが、ほぼ全域にわたり遺構や遺物が確認することができた。よって本調査実施の必要がある。（佐野）



4 SB1004 全景(南より)



5 SB1004 出土遺物



6 中庄東遺跡 No50 トレンチ土層堆積状況

おお がき 大 柿 遺 跡

所 在 地 三好郡三好町豊間字船戸2276他
調査期間 1999年4月2日～2000年3月31日
担当者 田川 加藤 上窪

調査概要 大柿遺跡は吉野川左岸の微高地上に立地している。遺跡の標高は約80m前後を測る。

昨年度に引き続き、調査対象地は遺跡の立地する微高地南西側縁辺部の傾斜変換部分にあたり、東側の1・2区が集落部分、西側の3・4区が水田域と推定された。あわせて佃地区から西側は、遺構面の存在とその広がりを面的に把握するためにトレンチによる試掘調査を計11ヶ所で行った。

SD2001 溝 2-2区で検出された溝で、北西から南東方向への流れをもつ。逆台形に近い断面をもち、最大幅2.5m、最大深度1.2mを測る。覆土は黒褐色を呈し大きく4層に分かれ、最下層は砂が主体となる。おそらく遺跡の北西を南流する小川谷川で取水し、南側低位にある水田へ水を供給する灌漑用水路であろう。しかし、傾斜変換部分から南は水路としての形態を保たないことから地形の傾斜を利用して田落として水を流していたものと思われる。

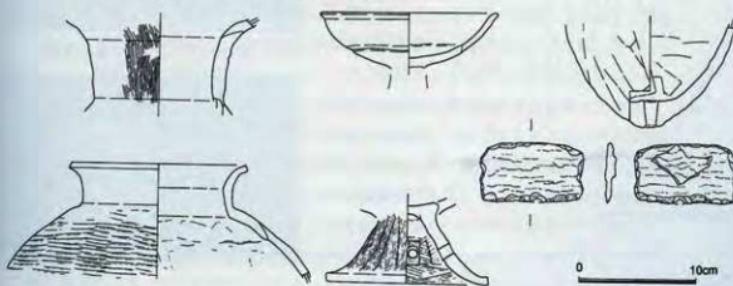
遺物は各層とも密に出土するが、その殆どは小破片で完形は少ない。しかし破片は摩滅もなく、比較的同一個体と思われる破片がま



1 調査地点の位置（阿波・池田）



2 SD2001 遺物出土状況



3 SD2001 出土遺物

とまっており、最下層でも多量に出土することから、水路として使用している時期に既に土器の廃棄が行われていたものと思われる。土器は多少の欠落があるものの壺、甕、高杯、瓶、鉢などセット関係が窺える。時期的には弥生時代後期～古墳時代初頭と考えられる。

水田跡

西側の調査区(3区)では、弥生時代中期～近世初頭にかけての合計14面にも及ぶ水田が検出された。その中でも、第9～14水田面直上には吉野川の氾濫による洪水砂が堆積しており小区画水田の畦畔や水口・水尻、稲株・足跡などが明確に検出できた。各水田面は、ほぼ自然傾斜を利用して個々の水田は緩く南側へ傾斜している。さらに第14水田面は直下の砂礫層の影響を大きく受けているためか、区画も小さく短辺5m程となる。

また第6水田面以下は調査区内で水田の広がりが終わり、東側に一段高くなる。これは現地形と異なり旧地形においてはさらに小規模の微高地が数ヶ所において発達していたものと思われる。

試 挖

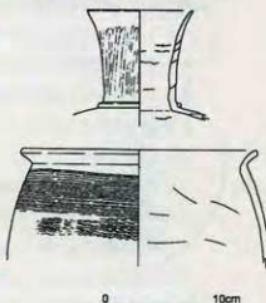
大柿遺跡の微高地西側に当たる範囲で標高82m前後を測る。各トレンチとも水田面を確認したが、第11トレンチにおいてのみ南北方向の畦畔及び水口が確認された。この畦畔は4区の第6水田面の東西方向の畦畔と一連のものと思われる。一方、第1～7トレンチでは小川谷川の押し出しと思われる砂礫層が堆積しており、水田面の遺存状況も非常に悪い。よって、第11トレンチを設定したカリ屋地区から東側で本調査の必要があると判断した。

ま と め

昨年度の調査に引き続き集落部分と水田域が明らかになってきた。特に3区においてさらに詳細な水田範囲を把握できたことや、各水田面の時期やそれに伴う用水路の確認など、本遺跡における弥生時代中～後期における水田のあり方が浮かび上がってきた。(田川)



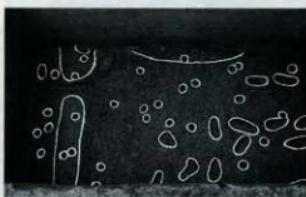
4 最下層の水田 完掘状況



5 水田出土遺物



6 10トレンチ 土層断面図



7 11トレンチ 水田面完掘状況

なか しょ ひがし 中 庄 東 遺 跡

所在地 三好郡三加茂町中庄431-1他
 調査期日 1999年4月2日～2000年3月31日
 担当者 大山 小泉 佐野

立地と環境 調査地は吉野川南岸中流域の北から南へ緩やかに傾斜する沖積地に位置し、標高は約65～68mを測る。調査地付近は、条里の名残りが現在の地割りや地名に認められる所である。

調査概要 調査区はA区～D区の4カ所あり、A・B・C区では8世紀と10世紀の2枚の遺構面を、D区では上記に加えて11世紀と14世紀、16世紀の5枚の遺構面を検出した。主な遺構は掘立柱建物と土壙墓、水田、集石遺構である。

集石遺構
SU1001 D区中央部付近、第1遺構面で検出された集石遺構である。平面形状は南方に直径約5mの円形、北方に約2m×4mの方形が組み合わさった鍵穴状を呈する。深度は南方では約0.3m、北方では約0.8mである。

南方の集石では縫間より16世紀後半の遺物のみが出土し、北方の集石では16世紀～18世紀の遺物が縫間より混在し出土している。集石遺構の時期は、北側は18世紀以降で、南側は16世紀と思われる。

この集石遺構の南東部上面より、扁平な片岩には法華經の一部を墨書きした「礎經石」が出土している。集石遺構南側は16世紀後半と思われるが、検出状況から南側も集石上面では18世紀以降での攪乱の可能性を否定しきれず、礎經石の年代は特定できない。

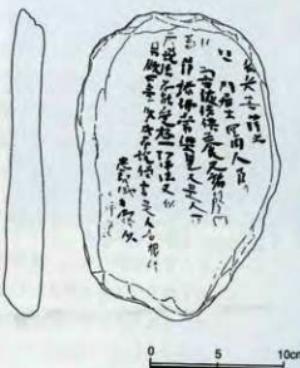
掘立柱建物
SA5002 D区の第5遺構面で検出された。一部が調査区の東外にかかるため全容は不明であるが、検出できた範囲では2間×3間の柱構造をもつ掘立柱建物である。東西方向の主軸は10°ほど南へ振り、現在の地割りから復元される条里の方向と近い。柱穴は直径0.6mの円形の平面プランをもつものが多い。柱間の距離



1 調査地点の位置（池田）



2 紋經石 出土状況



3 紋經石 実測図

は、東西方向は1.2m、南北方向は1.8mと梁間と桁間とで違っている。柱穴埋土の遺物はほとんどみられず、土師器の細片が数点出土したのみであるが、掘立柱建物の時期は同じ遺構面の他の遺構内遺物より8世紀代に収まるものと思われる。他に掘立柱建物と思われる柱穴の並びが調査段階で2棟確認できている。加えて他にも同様の柱穴がいくつかあり、さらに数棟の掘立柱建物が建つ可能性がある。

土 墓

D区の第5遺構面で多数検出された土壙墓の平面プランは隅丸方形で、長軸1.8~2.0m、短軸0.8~1.0m、深度0.6~1.0mを測る。主軸方向は南北方向に近いものと東西方向に近いものがあり、南北方向の土壙墓は東西方向の土壙墓を切るものが多い。

この土壙墓埋土は黄色い砂質土とやや赤黒い粘質土とが約10cmごとに互層となっている。土壙墓壁には木枠の痕跡と思われる変色土がみられるものがある。時期は、埋土中には遺物はほとんど含まれないものの、同一面の他の遺構や出土遺物より8世紀代と思われる。

これらの土壙墓は末石遺跡で100基近く検出された「土壙墓」と酷似している。

水 田

D区の11世紀と見られる第3面と10世紀と見られる第4面とで、中央付近から南端にかけて検出された。多数の稻株痕とはば南北方向に向かっている鶴溝が確認できたが、畦畔は検出できなかった。出土遺物は、土師器細片、須恵器細片が出土している。継続的に水田耕作が行われていたものと思われる。

ま と め

今回の調査によって1998年度の調査に追加する資料が得られた。また、末石遺跡と同様の土壙墓が多数検出されたことで8世紀段階での集落の広がりを広範囲にとらえられることが分かった。(佐野)



4 D区 SU1001 検出状況



5 A区 第2遺構面完掘状況



6 D区 第1遺構面完掘状況



7 D区 第5遺構面完掘状況

まち 町 口 遺 跡

所在地 板野郡吉野町字西条字町口33-3他

調査期間 1999年4月6日～2000年3月31日

担当者 喜枝 前川

調査概要 本遺跡は吉野川下流域北岸の後背湿地に面した微高地に位置する。標高は約12mを測り、現況は水田である。板名用水と蛇池川に挟まれた当調査地は、吉野川の河川変更に伴う侵食を受けながらも、比較的安定した地形であったと考えられる。

吉野町には二条、西条、五条などの条里呼称とみられる地名が現存しており、近隣に伝藤原西光屋敷跡がある。中世には後の阿波九城の一つ西条城をはじめ諸城が点在していたことが「古城諸将記」に記されている。また鎌倉時代末期の「鎌倉幕府裁許状断簡写」の中に西部に隣接する柿原荘とともに松島西条荘の存在がうかがえる。

第1遺構面 挖立柱建物15棟、溝10条、井戸1基、土坑60基等が検出された。遺構は13世紀と16世紀の2時期に分けられ、調査区の一部では13世紀の遺構と16世紀の遺構が重複していた。

掘立柱建物 13世紀の建物の規模は総じて小さく、屋敷を区画する溝は今回の調査では確認されなかった。16世紀では方形区画溝をもった屋敷地が形成され、建物の規模も大きくなる。この方形区画溝は現存地割として生き残っており、これにより推定敷地面積と連続する方形区画敷地3区画が把握された。

井 戸 SE1001 一辺約5mの掘り方をもつ砂岩組の井戸が、調査区北部で検出された。直径約1mのやや梢円形で、深さ約3mを測る。最下部は半裁した竹を井筒の内側に打ち込んだ緩板井筒であり、16世紀の構築である。埋土から元代の作とみられる青磁酒海壺の蓋端部が出土した。



1 調査地点の位置 (川島)



2 第1遺構面 完掘状況



3 SA1007・1008 完掘状況

溝 調査区中央より直交する2条の溝が検出された。南北方向の溝には西岸に詰石の施された石列が約6mに渡って構築されており、これに並行するように船底状を呈する掘り込みと杭列とが確認された。16世紀の屋敷地の区画溝であるが、小規模な船着場としての機能をも備えていたと推測される。

第2構造面

自然流路2条、溝1条、土坑31基などが検出された。遺物包含層 遺構内出土遺物から9世紀の年代と考えられる。遺構面は、調査地点南部に広がっていたとされる吉野川旧本流域と、調査区北端で検出された自然流路との間に挟まれた微高地の一部であったと推測される。上面には全域にわたり砂質土層 砂層が約50cmの層厚で堆積しており、吉野川からの溢水により埋没したものとみられる。遺構密度は緩慢である。

出土遺物

16世紀関連の遺物では酒海壺や小札、13世紀関連では青磁碗や滑石製石鍋、在地型瓦器椀、9世紀関連では須恵器の杯などが遺跡の性格や近隣の遺跡との関係を探る上で重要なといえよう。

まとめ

吉野町で初の本格的な調査となる町口遺跡において、古代および中世の遺構面を確認したことは大きな成果であった。特に今回の調査では13世紀に関連する遺構群が確認され、吉野川に沿った低湿地開発がこの時代に進んだことが裏付けられ、これまで文献史料でしかうかがえなかった松島西条荘の存在を確認することができた。

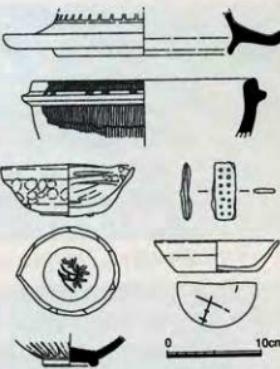
また16世紀の屋敷地の区画は現存地割として生き残っていることが確認されたほか、屋敷地の推定敷地面積が把握され、区画の連続性が少なくとも調査地点の約1km四方の範囲に認められることが指摘できる。(喜枝)



4 SE1001 断面状況



5 SP2150 遺物出土状況



6 出土遺物

いし い じょう の うち 石井城ノ内遺跡

所在地 名西郡石井町石井字城ノ内381 1

調査期間 1999年11月1日～2000年2月29日

担当者 島田 妹尾 宮本

調査概要 調査地は吉野川下流域南岸、標高約8mの沖積平野上に立地し、南側には気延山の山塊がそびえる。当地における調査は今回で第7次となる。調査範囲455m²と小規模ながら、遺構面数は5面を数える。

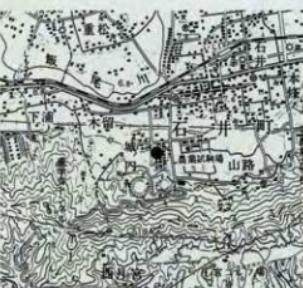
主な遺構
遺物 第1遺構面は、近世の水田で稲株状小穴 鋤溝を多数検出し、寛永通宝等が出土した。
第2遺構面は中世の水田で、多数の稲株状小穴 耕作具痕 足跡を検出した。北宋銭のほか銚前牝金具が出土し、銚前は長さ5.9cm、高さ2.5cmの平面凹形の銅製品で、類例が一乘谷朝倉館跡から出土している。

第3遺構面では、耕作に伴うものと考えられる34条の浅い溝群を検出した。

第4遺構面では、溝4条 井戸 土器溜りのほか多数の稲株状小穴を検出した。井戸は直径約3.3m、深さ約3mを測り素掘りである。埋土中位から布留式期の壺 高坏が出土した。土器溜りは、幅約1.2m、深さ0.3mの不整形土坑で庄内～布留式期に位置づけられる多量の土師器片が出土した。

第5遺構面では溝7条、土坑、柱穴の他、夥しい数の稲株状小穴や足跡が検出された。

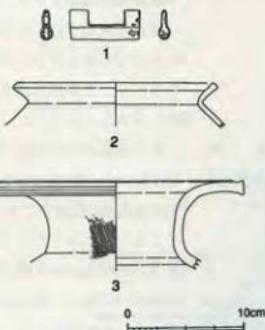
まとめ 今回の調査で、重要な遺構 遺物が確認できた。とくに第2遺構面から出土した銭貨および銚前から、調査区北側に城館的な遺構の存在を推測できる。第4遺構面で確認された井戸や土器溜りから、古墳時代前期の遺構群が調査区西側に拡がっているものと推察される。これらの一括遺物は今後の調査・研究における重要な資料となるであろう。(島田)



1 調査地点の位置 (川島)



2 第2遺構面 銚前出土状況



3 出土遺物
1 銚前 2 壺(SE4001) 3 壺(SX4001)

かん のん じ 觀音寺遺跡・敷地遺跡

所在地 徳島市国府町敷地60-4他

調査期間 1999年4月6日~2000年3月19日

担当者 氏家 宮谷 松田 堀岡

橋本 大石 和泉

調査概要

本遺跡は吉野川と鮎喰川に挟まれて形成された沖積地上に位置しており、標高5~6mを測る。調査地の周辺は旧河道によって形成された微高地が多く存在している。なお調査地点は觀音寺遺跡と敷地遺跡の二遺跡にまたがって設定されており、JR徳島線を境として南側が觀音寺遺跡、北側が敷地遺跡となる。

奈良・

平安時代

遺構面は調査区のほぼ全域に拡がっており、特に2区周辺からは土坑や柱穴が、1区、5区からは水田跡がまとまって検出されている。

掘立柱

建物群

2-1区、2-3区からは、8世紀前半から9世紀前半にかけての掘立柱建物跡が11軒検出された。建物は西側の廂付の建物を中心として「コ」の字状に配置されており、南側に総柱の倉庫を伴っている。建物群は1度立て替えが行われており、立て替え時には位置が僅かに東にずれているものが多い。柱痕内からは柱の抜き取り後に焼土が充填されているものや、土器器の皿や壺を重ねて埋納してあるものがみられた。

井戸

SX3001

掘立柱建物群の東側で検出された。掘り方径が4.7m、深さ2.8mを測る。井戸枠は検出面から0.9mの深さでその痕跡が検出され、それより約1m下からは木枠が遺存していた。枠は内法0.9mの方形で隅柱を持つ。井筒は径50cmの円形で、深さ20cmの曲物が配置されていた。井戸内からは、土器、土錐、鎌の柄、曲物、刀形木製品等とともに、木簡が1点出土している。年代は8世紀前半である。

水田

1-1区からは4層、5区からは3層にわたり連続して古代の水田跡が検出されている。



1 調査地点の位置 (川島)



平安時代水田全景



3 SX3001 完掘状況

両地区ともに微高地の縁辺部に位置しており、微高地沿いに用水路を配して1-1区は南側に、5区の方は北側に向かって水を落としていくよう畦畔の区画がされている。水田経営の開始年代は8世紀以後である。

古墳時代

古墳時代の集落は昨年度に引き続き、竪穴住居15軒が1-2区、2-5区で検出された。時期は5世紀末と7世紀前半の2時期に分かれおり、5世紀末の住居は2区～4区の南側から7軒、7世紀前半の住居は4区の北側と5区から8軒がそれぞれ検出されている。

まとめ

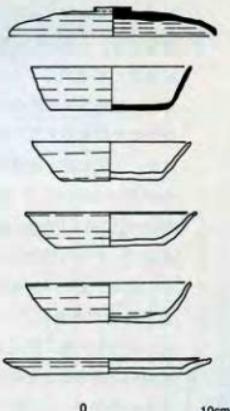
今年度の調査において最も注目されるのは、2区において検出された掘立柱建物群である。これらの建物群は周囲に明確な区画を持たないこと、官衙の建物に比べて柱間にややばらつきが見られること、井戸を伴うこと、赤色塗彩土器や律令祭祀遺物が出土すること、国府の存在が予想される觀音寺跡に近接していることなどから、国司階級の官人の館跡であると考えられる。また井戸内より出土した木簡には阿波国七郡（阿波 麻植 板野 名方 美馬 勝浦 那賀）のうちの四郡（板野 勝浦 麻植 那賀）の郡名が記されていた。郡名表記では勝浦と那賀が併記されていることが注目される。和銅四年～七年（711～714年）までの長屋王家木簡や平城京出土木簡には那賀郡は「長郡」と表記されており、その後の天平七年（735年）の年紀をもつ平城宮出土木簡では「那賀郡」に表記の変更がみられる。長国造の支配領域であった勝浦・那賀・海部川流域は大宝令（701年）の時点では長郡になるが、靈龜元年（715年）とされる郷里制の施行に伴い、この頃南部が那賀郡、北部が勝浦郡に分割される。今回の木簡は共伴した土器の年代から8世紀前半にあたるため、郷里制施行直後の郡域分割の事実を証明する好資料といえる。（氏家）



4 古墳時代遺構面 完掘状況



5 住居内遺物出土状況



6 掘立柱建物内出土遺物

しきじ 敷地遺跡

所在地 徳島市国府町敷地350-1他

調査期間 1999年4月6日～2000年3月20日

担当者 幸泉 元木 喜田 佐藤(治) 谷

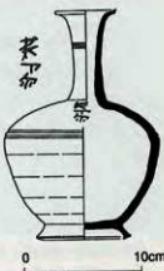
調査概要 調査地は、駄喰川左岸の沖積地上に形成された微高地の縁辺部上に位置する。今年度の調査では、弥生時代、古墳時代～古代、中世の3つの遺構面を検出した。

弥生時代 弥生時代の遺構面は後期後葉に限定される。遺構密度は低く、今年度は竪穴住居1軒、自然流路1条等を検出したいたどった。

古司館跡 古墳時代～古代の遺構面では掘立柱建物3棟、竪穴住居8基、井戸跡1基、土坑46基、自然流路1条等を検出した。掘立柱建物のうち北側の調査区、6-3区で検出したSA2001は、隣接する平成10年度調査区において検出された2棟の掘立柱建物群とN9°Eで直交し、全体で平面L字形の平面プランを構成することが新たに判明した。ともに8世紀後半に相当する。なおこのSA2001南西隅の柱穴に相当する地点からは、肩部に刻書の施された須恵器水瓶が完形で出土している。また、上記の掘立柱建物群の南東部に隣接して井戸(SE2001)が1基検出された。井筒部は一辺130～150cmを測る方形隅柱横板組の構造で、その内部からは墨書き土器、木簡、斎申、刺串、陽物、檜扇等の木製祭祀具、その他の遺物が多量に出土した。時期は8世紀末～9世紀初頭に限定されることから、井戸廃棄時に律令的な祭祀行為を行ったあと、これらの遺物を一括投棄したものと判断できる。さらに、この井戸(SE2001)の南約30～40mの地点において古墳時代後期～古代までの遺物を含む自然流路(SR2001)を検出した。特にSR2001のA～B区落ち際西斜面では墨書き土器、刻書き土器、斎申、刺串のほか個体数



1 調査地点の位置 (石井)



2 SA2001出土 須恵器水瓶



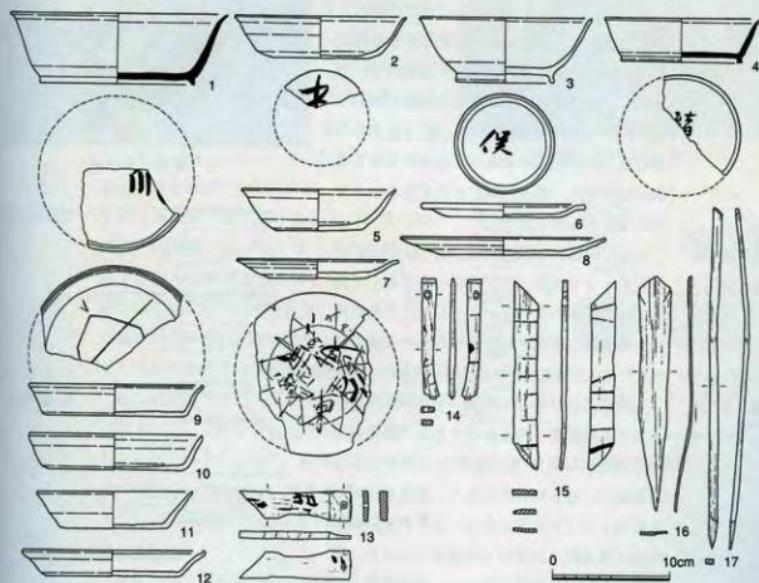
3 SR2001 遺物出土状況

で約1,000点に達する管状土錐が出土した。管状土錐の出土層位は9世紀初頭に比定される。これら古代に属する遺構群および出土遺物の内容から、阿波国府における国司館級の屋敷地に比定される可能性が最も強いと判断されよう。

中世 中世の遺構面は14~15世紀を主体とする。2時期の水田面、掘立柱建物3棟、集石土坑2基、溝11条等を検出した。水田は自然流路埋没後の低地部を中心に営まれており、また導排水機能を有すると推定される溝田遺構も多数検出された。当該期における水田開発技術の発達過程を知るうえで、新たな資料を提供することになる。(幸泉)



4 中世 第1水田面



5 古代の出土遺物 (1~10: SR2001、11~17: SE2001)

いけじりさくらま 池尻・桜間遺跡

所在地 徳島市国府町池尻316-1他

調査期間 1999年4月6日～2000年3月20日

担当者 早渕 北條 桧谷 相原

調査概要 本遺跡は吉野川と鈴吹川によって形成された標高5mの沖積平野に位置する。調査の結果、中世水田2面、古代水田2面及び7世紀代の土壙墓群、最下層部では弥生時代後期後半の包含層を確認した。

水田跡 第1 第2水田面は中世水田で、第2水田面では30m²前後の小区画水田30面を検出した。水田区画は現状の区画方位と一致している。水田層より瓦器輪 土師質土器杯 中国産陶器が出土し、水田の時期は13世紀代と捉えられる。第3 第4水田面は古代水田である。水田の区画方位は基本的に南北よりやや西に振った畦畔を軸に東西に分割するもので、第4水田面では12m²前後を測る小区画の水田である。出土遺物には須恵器杯 壺、土師器杯 壺の他、綠釉陶器片があり、遺物から第3水田が10世紀代、第4水田が8世紀末から9世紀代と捉えられる。

土壙墓 SK5052 長軸2.04m、短軸0.90m、深さ0.70mを測る方形土坑で底面より7世紀初頭と考えられる土師器高杯の受け部が出土した。7世紀代の土壙墓群が形成されているなかで、副葬品をもたない土壙墓群の中では唯一のものである。

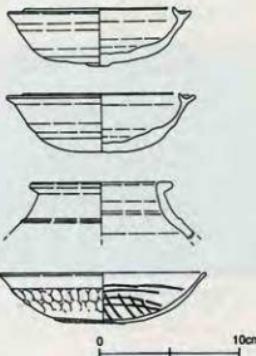
まとめ 本遺跡周辺は從来よりN-10°-Wの方位を示す条里地割が残る地域である。調査地点では真北から約10°西へ偏する水田の形成は8世紀代に遡る可能性があり、条里成立時期を究明する上で重要である。また7世紀前半代の土壙墓群は短期間に形成されており、周辺部の遺跡でも類例が見られ、当該時期の墓制を考える上で重要である。(早渕)



1 調査地点の位置(石井)



2 遺物出土状況



3 出土遺物実測図

中前川町2丁目遺跡

所在地 徳島市中前川町2丁目21他

調査期間 1999年8月1日～2000年3月31日

担当者 光山 藤川

調査概要 中前川町2丁目は、旧徳島城下町の助任前川地区の一角に位置する。中級 下級の武家屋敷が配置されていた。現標高約1mをはかり、城下町建設以前は低湿な環境にあった。絵図との照合から、居住する武家の内容が判明している。江戸前半期では南半に山崎家 北半に坪井家、後半期では南半に太田家 北半西に山崎家 北半東に渡邊家の名がみえる。

明治初年以降の層は大正に建設された工業試験場の解体時に削平されており、遺存しない。

遺構面は三面検出されたが、近いレベルでの遺構の重複が著しい。検出された遺構は200基を上回ったが、屋敷本体を確認することができなかった。現状で年代の判明する遺構は、幕末期のものが主体を占める。

敷地境界溝 第一遺構面で検出された幕末期の溝（SD1002 SD1003 SD1008）は二条が平行し、逆T字形の平面形を呈する。溝それぞれの幅は約1mを計り、山崎家側の溝内には石垣が築かれていた。石垣は結晶片岩を主体とし、最も良好な地点で高さ約40cm分遺存していた。

池状遺構 第二遺構面では、東西二カ所の池状遺構が確認された。安政十一年（1840）の年号を記した板材の出土などから、幕末期まで存続していたことがわかる。渡邊家側の池（SL2001）は、東西13.5m以上、南北12.7mの規模がある。

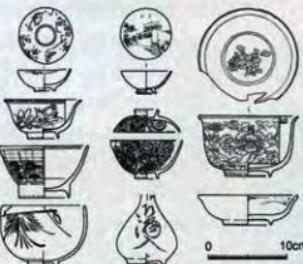
陶磁器類 瓦 木製品 漆器が大量に出土した。遺物の集中的な廃棄状況からみて、観賞用ではなく、ゴミため場として利用された



1 調査地点の位置（徳島）



2 建物跡（SA1001）検出状況



3 出土遺物（陶磁器）

ようである。

當時湧水がある湿潤な環境であったため、日常雑器をはじめ、建築部材や木簡などの木製品が良好な状況で残存していた。陶磁器 瓦 木製品 漆器 金属製品 石製品など、多岐にわたる膨大な遺物が出土した。

遺 物 出土した陶磁器類は、いずれも日常的に使用されたものが中心である。ごくまれに肥前系の色絵碗などの高級品が混入する程度である。

漆器では、見込み部に金泥で俳句らしい文字を記した杯や装飾性の高い箱形の一部などが出土した。

金属製品では、かんざし キセル 農工具などがあり、かんざしやキセルには鍍金や彫金を施した装飾性に富むもののが含まれる。

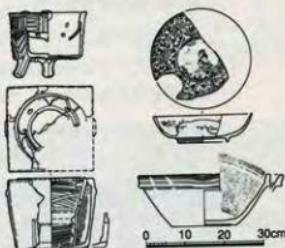
木 簡 2カ所の池状遺構から合計20点余りの墨書きされた木製品が出土した。角柱状のものなど多彩な形態がみられ、荷札木簡をのぞくと用途の不明なものが多い。

荷札木簡は、上端あるいは下端に切り込みがあり、一端を尖らせるものや円孔を穿つなど古代のものと形状は変わらない。山崎家宛のものと宛先がなく藩の御用米との二種がある。前者は冒頭に「阿州」の文字を記し、山崎家の淡路の領地からの可能性が高い。後者は、藩領である海部郡内の村(辺川村・芝村)からのもので、計量担当者(「升入」「升取」)の名を記す。幕末当時の山崎家の当主ある吉司は、北御藏奉行と新御藏奉行についていたことが分かっている。執務を奉行所ではなく、在宅で行った際に木簡を廃棄した可能性がある。江戸期の年貢の納入方法の具体像を記した資料として非常に資料性が高い。

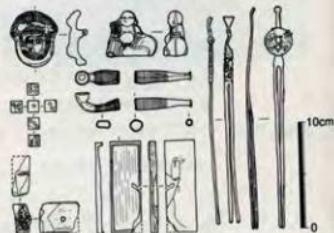
(藤川)



4 SL2001 遺物出土状況



5 出土遺物(陶磁器)



6 出土遺物(土製品・金属製品)



7 噴砂検出状況

試掘調査

所在地 発掘調査一覧表参照

調査期間 1999年10月1日～2000年3月21日

担当者 小泉 島田 妹尾 早瀬 北條
樋谷

川端枇杷田 【県道路改築事業（徳島引田線）建設工事】

遺跡

調査対象地は、旧吉野川北岸の沖積地上に位置する。標高は3.5～4mを測り、北から南に向かって緩やかに傾斜する。調査地の現況は水田である。調査地の西側低地には黒谷川郡頭遺跡、宮ノ前遺跡、古城遺跡が位置し、北側には南海道、阿讃山脈南麓の尾根筋には蓮華谷古墳群（I II）、愛宕山古墳等多数の古墳が存在する。調査の結果、各トレンチから水田面に近似する堆積層は確認できたが、明確な遺構は検出できなかった。大型トレンチで確認調査を行った結果、自然流路が検出され、現地表と同様に北側の谷筋から流れていたと思われる。出土遺物は摩滅が著しく、本調査の必要はないと考える。（妹尾）

天神遺跡

【県道路改築事業（宮川内牛島停車場線）建設工事】

調査対象地は、吉野川中流域南岸の自然堤防上と思われる地域に所在する。調査地北側には吉野川南岸堤防があり、調査地は標高10～12mを測る。地形図で見る限り、調査地周辺地域が南北の地域よりも微高であることがわかり、「牛島」という地名から考えるに本調査地が吉野川の中洲であった可能性も否めない。対岸の吉野川北岸には町口遺跡があり、その付近には西条城があるとされ、有力な豪族の存在が推測される。しかし、すべてのトレンチでシルト・細砂層の下に砂礫層を確認し、遺構はまったく検出されなかった。遺物は新しい時代のものであり、吉野川の氾濫域であったと推測される。本調査区において本調査の必要性はないと考える。（島田）



1 調査地点の位置（川島）
川端枇杷田遺跡



2 川端枇杷田遺跡 調査前風景



3 調査地点の位置（川島）
天神遺跡

観音寺遺跡 [道路改築事業(徳島環状線国府工区)建設工事]

本調査地点は鈴川によって形成された沖積地上に立地する。現況は盛土による造成地となっているが、旧耕作土面は標高5.5mを測る。また、調査区南東側から北西にかけて舌洗池より北流する河道が存在する。

調査区は国府推定域北側に位置し、平成9年度に調査された観音寺遺跡では旧河道が検出され、飛鳥・奈良時代の木簡が多数出土した。また平成10年度の調査においても同旧河道より奈良時代の遺物が多量に出土し、今回の調査地点にも旧河道の存在が予想される。

調査の結果、北東側に一部微高地の縁辺部が検出され古墳時代の遺構面の他、古代から中世にかけての遺構面及び水田面を確認した。また、微高地より南側一帯は旧河道及び低湿地状の低位部であることが確認された。

河道の基本的土層堆積状況は、南側に向かい傾斜するものの標高4m前後に厚さ20cm程度の自然遺物堆積層が広がり、その中に10世紀代の土器と共に曲物の側板など木製品および木簡1点が出土した。また下層部においても、植物遺体 砂層の互層が堆積しており、若干の土器類および加工木が出土した。飛鳥・奈良時代の流路は調査区の南側に存在すると考えられ、最下層部で検出された砂疊層からは、飛鳥時代の土師器 須恵器片が出土した。

まとめ 想定される飛鳥・奈良時代の旧河道は、調査区の南東部から北西部に存在するものと考えられ、出土遺物などから木簡の出土した観音寺遺跡から続く河道である。この河道は、10世紀段階では完全に埋没しており、調査区のほぼ全域が低湿地状を呈していたと考えられる。(早渕)



1 調査地点の位置 (石井)



2 土層堆積状況



3 遺物出土状況

圃場整備関連調査

所在地 発掘調査一覧表参照

調査期間 1999年7月1日~2000年3月31日

担当者 谷 相原 島田 妹尾 大石 斎
佐野 宮本

別所遺跡 本遺跡は吉野川中流域の左岸にある沖積平野に位置し、標高45~47mを測る。現況は、水田および畑作地である。

調査地近辺には旧石器時代から近世に至る遺跡が点在し、前年度までの本遺跡の調査においても、古墳時代から中世に至る遺構・遺物が確認されている。今年度は3~4m幅で南北約250m、1~2m幅で東西約150mの範囲にトレンチを12ヶ所設定し、調査を行った。

第1、2遺構面からは、調査区ほぼ全域に中世・古代の水田が確認され、動溝・稲株痕などが検出された。またかつての吉野川の支流と考えられる流路も北東方向に確認された。

第3遺構面には、弥生時代後期の竪穴住居5軒、土坑・柱穴・溝が確認された。本遺構面の遺構総数は162基で調査区全域に拡がり、弥生土器やチャート・サスカイト製の石器など約2万点の遺物が出土した。

竪穴住居 SB3001 隅丸方形を呈し、周縁にベッド状遺構を伴う。直径約7.5m、深さ約45cm。主柱穴は深さ53cm、直径22cmで柱痕が明瞭に残る。遺物にはタタキやハケなどの調整が施された甕などの小片500点余りと多く、柱穴付近からは敲石などの石器も出土した。

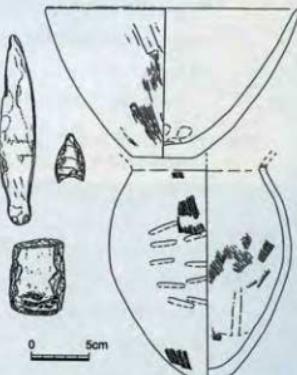
まとめ 総じて遺構面は吉野川旧流路とその分流に挟まれた微高地に営まれたと考える。本調査により本地区で初めて弥生集落が河岸段丘より低地で確認され、その根柢となる知見が得られた点で貴重である。(谷)



1 調査地点の位置 (脇町)
①別所遺跡



2 2区第3遺構面 完掘状況



3 出土遺物

東原遺跡 本遺跡は、吉野川中流左岸の沖積扇状地に位置し、標高35~45mを測る。周辺には古墳時代から中世に至る周知の遺跡が点在する。

今回の調査地は東原遺跡と吉友遺跡で、圃場整備事業の水路と道路部分にトレンチを3ヶ所設定し、遺構・遺物を確認した。

調査の結果、調査区全体の土層は総じて吉野川支流の觀音谷川、柿ノ木谷川などの扇状地の押し出しや氾濫の土砂堆積の影響による砂礫層など前年度の調査との対応が見られた。

東原遺跡のトレンチNo.4、4'においては、洪水の影響を受けにくい微高地の地山直上に弥生時代前期の遺物を含む土坑が数基確認され、サヌカイト製石器や弥生土器などの遺物が出土した。当地域において、弥生時代の遺構の確認例は初めてであり、周辺に当該期の遺構群が拡がる可能性が示唆された点で貴重である。(谷)

切幡城跡 吉野川中流域北岸の扇状地上で、西を柿ノ木谷川、東を觀音谷川に挟まれ、両川がY字状に合流する部分が調査地である。ここに昭和初期まで東西方向の堀があり、これを切幡城の南限とする説がある。『阿波志』等には鎌倉時代末期にここに初めて館が築かれ、1579年城主森飛騨守が脇城外で戦死した後、廃城になったという。

今回の調査では幅約6m、長さ77m以上、深さ2~3m、断面逆台形の東西方向の溝状遺構が検出された。遺物は摩耗した土師質土器片のほか、埋土下位まで近世の瓦などが入ること、水流による砂礫の堆積がみられるところから、近世まで用水として利用されており、開削時期は不明である。今回、切幡城の堀であると証明するには至らなかったが、この溝状遺構に切られた状況で井戸1基が検出された。無遺物であったため井戸の年代は不明であるものの南北に遺構が拡がる可能性が高いものと推測できる。(島田)



4 調査地点の位置 (川島)
②東原遺跡・吉友遺跡 ③切幡城跡



5 東原遺跡・吉友遺跡 調査前風景



6 No.4 トレンチ 遺構完掘状況



7 切幡城跡 遺構完掘状況

大郷領遺跡 調査地は小松島市の西部、那賀川下流北岸の沖積平野にある水田地帯である。調査地北西の宇宮の内には、11世紀初め石清水八幡宮の莊園である梯湊庄が設置されており、また付近には中世城館である梯湊城も築かれている。

道路や水路の予定地に沿ってトレーニングを実施した。その結果、ほとんどすべての地点で30~60cm掘り下げるところと水生植物痕や流木等を包含した灰色粘土層があらわれたことで、付近一帯がかつて水く水面上にあったことが考えられた。山際の地点では、掘削開始後まもなく表土直下で地山層につきあつた。

今回の調査では遺構はまったく確認できなかったものの、出土遺物の総数は590点以上であった。主なものとして、須恵器甕、須恵器短頸壺、瓦質土器、備前焼摺鉢などがあり、古代から中世にかけてのものが中心である。(大石)

七見遺跡 調査地は阿南市の南東部に位置し、那賀川と桑野川の南岸、および打樋川周辺の沖積平野上に立地する。調査地のすぐ南東に王子山古墳群(6世紀後半)がある。

調査にあたっては日開野町、七見町部分を1工区、西路見町部分を2工区とした。道路や水路の予定部分に沿って1工区では27ヶ所のトレーニングを、2工区では9ヶ所のトレーニングを実施し、調査をおこなった。

その結果、1工区の南側で平安時代後期と考えられる溝状遺構を確認できた。また、1工区の西側では中世の溝状遺構および土坑などを確認した。

出土した遺物の総数は1,410点である。おもな遺物としては弥生時代後期の高杯、平安時代後期の須恵器瓶片や土師器碗、中世前期の土師器碗などである。(大石)

平松遺跡 調査区は、阿南市椿町で、平松遺跡・桶ヶ浦遺跡・小島遺跡の3遺跡を調査した。いずれの遺跡も標高1~17mほどを測るアリス式



8 調査地点の位置 (阿波富岡)

④ 大郷領遺跡



9 大郷領遺跡 遺物出土状況



10 調査地点の位置 (阿波富岡)

⑤ 七見遺跡



11 七見遺跡 溝状遺構完掘状況

海岸に面した狭い谷間で、現況は棚田となっている。

平松遺跡では、瓦器片などの13世紀の遺物を包含する層が一つのトレーナーで確認できたので、拡張し調査をおこなった。その結果、柱穴などの遺構が約120基検出できた。調査の段階では確認できなかったが、これらの柱穴のなかには根石を据えているものもあり、検討次第では掘立柱建物が建つ可能性がある。また、他のトレーナーより明らかな客土層からではあるが、青磁片や北宋銭、サヌカイト製の石鎧なども出土している。

桶ヶ浦遺跡 小島遺跡の2遺跡では、現耕作土中から土師器片等の出土は見られたものの、何らの遺構も確認できなかった。(佐野)

大里前田 遺跡

調査地は海部川北岸の沖積平野上に立地する。調査地の東には大里古墳(古墳時代後期)

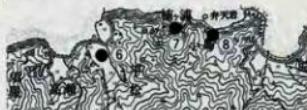
があり、北には近世阿波藩の藩軍制に位置づけられた元御鉄砲屋敷が存在する。

調査は大里川 善藏川の河川局部改修に伴う発掘調査と、県営圃場整備事業に伴う発掘調査をあわせて実施した。前者は新河川幅に、後者は道路や水路に沿ってトレーナーを設定し、掘削をおこなった。

調査区北部で古代の須恵器を含む包含層を確認した。これは北側の高地(御鉄砲屋敷地)からの流れ込み堆積であり、その層の上に水田面が開発されたと思われる。調査地の西部から南東部にかけては、表土に近い層で砂礫や砂が堆積していた。

今回の調査における遺物の出土総数は1,350点である。主な出土遺物は、中世の青磁碗 羽釜、古代の須恵器杯などである。

(大石)



12 調査地点の位置(阿波富岡・日和佐)
⑥平松遺跡 ⑦桶ヶ浦遺跡 ⑧小島遺跡



13 平松遺跡 遺物出土状況



14 調査地点の位置(甲浦)
⑨大里前田遺跡



15 大里前田遺跡 出土遺物

IV 整理事業報告

今年度は、四国縦貫自動車道第10次区間（脇～美馬）及び第11次区間（美馬～川之江）建設関連、一般国道192号徳島南環状道路改築事業関連、中央構造線断層帯調査関連など、9事業に伴う23遺跡の整理作業に担当職員20人、整理作業員延べ24,000人が従事した。

主な整理業務内容は、次のとおりである。

四国縦貫自動車道（美馬～川之江）建設に伴う大柿遺跡では、平成8年度から9年度に発掘調査が実施された際に確認された縄文時代後期から古墳時代初頭の遺構・遺物の内、弥生時代中期初期の水田や集落関連遺構出土遺物を中心に整理作業を行った。

一般国道192号徳島南環状道路改築事業に伴う矢野遺跡では、平成4年度から7年度の発掘調査で、63基の堅穴住居を中心に多くの遺構を検出し（II群と呼称）、弥生時代後期から中世にかけての膨大な数の遺物を出土した。本年度は、弥生時代の土器及び石器の図版作成を中心に整理作業を行った。

中央構造線断層帯調査に伴う川端遺跡では、平成10年度に発掘調査が実施された際に確認された古代寺院（金光明庵寺）関連の遺構や馬形埴輪、円筒埴輪などの出土遺物整理を行った。（西谷）

出土品整理業務一覧表

事業名	遺跡名	所在地	委託者	整理期間	整理担当者	遺跡の概要	整理概要	備考
阿波池田公共交通衛生 施設整備	マナ	三好郡池田町字マナ 2429-1	農業安定課	1999/9/1～ 2000/4/24	福 良	弥生～中世の集落	報告書刊行	報告書は平成11年度に刊行
中央構造線断層帯調査	川端	板野郡野市町字中谷 12他	消防防災安全課	1999/1/1～ 1999/6/31	栗 木	古代寺院関連遺構 弥生集落、寺院関連遺構	報告書刊行	報告書は平成11年度に刊行
	今泉寺	板野郡大字寺龜山下 50他						
城西高校 名西高校 施設整備	船塚	徳島市船塚町2丁目1	教育課程課	1999/4/1～ 1999/10/31	岡 山	弥生時代後期集落	報告書刊行	報告書は平成11年度に刊行
	石井	名西郡石井町石井字井 石井21-1				古代・中世集落		
県企業局総合管理事 務所駐車場	新町1丁目	徳島市新町1丁目 85-2	県企業局	1999/4/1～ 2000/3/31	日 下	近世武家屋敷	報告書刊行	報告書は平成11年度に刊行
西高ナクスカール新規	貞光前田	美馬郡 貞光町東浦 128-4他	労政訓練課	1999/4/1～ 2000/3/31	泊 高柳	縄文～中世の集落	報告書作成まで 刊行予定	報告書は平成12年度に刊行予定
島島保健所改築	新町3丁目	徳島市新町3丁目80	保健福祉政策課	1999/1/1～ 2000/3/31	石 尾	近世城下町	報告書刊行	報告書は平成11年度に刊行
高倉住宅（石井前賣我 田地）整修工事	石井城之内	名西郡石井町石井字井 井2-6他	住 宅	1999/11/1～ 2000/3/31	岡山 福良	縄文～近世の集落 生産道路	基礎整理まで	
	堀 部	美馬郡美馬町字堀部 2-6他			下 座	縄文・中世の集落		報告書は平成12年度に刊行予定
	坊 備	美馬郡美馬町字坊備 10他			横 田	古代の火薬庫 中世の石造遺構	基礎整理まで	報告書は平成12年度に刊行予定
	東 草	三好郡 三好町大字足 代字草原460-1他			横 田	中世の堅立柱建物跡		
	西 草	三好郡 三好町大字足 代字草原770他			下 座	弥生後期の集落	基礎整理まで	
四国縦貫自動車道	円通寺	三好郡 三好町矢代 1391-1他			横田 下座	中世の城館跡	報告書刊行	報告書は平成11年度に刊行予定
	八幡	三好郡井川町字八幡 28-3他	日本道路公团 四国支社	1999/4/1～ 2000/3/31	横 田	中世の柱穴	報告書刊行	報告書は平成11年度に刊行予定
	井 内	三好郡井川町西井川 1405-1他			横 田	中世の炭鉱跡	報告書刊行	報告書は平成11年度に刊行予定
	木	三好郡井川町西井川 88-2他			横 田		報告書刊行	報告書は平成11年度に刊行予定
	丸 山	三好郡三好町努力字 丸山			八木盛	弥生・中世の集落	基礎整理まで	報告書は平成13年度に刊行予定
	土 井	三好郡三好町大字佐 門子井614他			大 北	弥生・近世の集落	報告書作成まで 刊行予定	報告書は平成13年度に刊行予定
	大 桟	三好郡三好町大字佐 門子井カタケメン他			植 村	金糞 中野 野村	報告書作成まで 刊行予定	報告書は平成13年度に刊行予定
一般国道192号徳島 衛生施設	矢野1群	徳島市国府町矢野字 矢野1-1他	建設省四国地方 建設局	1999/4/1～ 2000/3/31	元藤 佐野 大曾 直參	縄文・中世の集落	地盤整理まで	報告書は平成13年度に刊行予定
	大野1群	金糞 金糞			植 地	古代の官衙	基礎整理まで	
	観音寺	豊島郡吉野町66他						

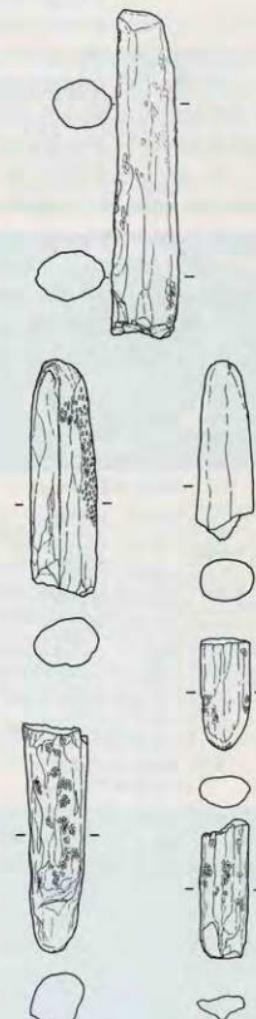
川端遺跡 川端遺跡は、板野郡板野町所在の古墳時代中期から古代にかけての遺跡である。1998年度に中央構造線断層帯調査に伴い発掘調査が実施された。古墳時代の遺物は5世紀後半の古墳を破壊した際に持ち込まれた各種埴輪と、6世紀前半の祭祀遺構に伴う馬形埴輪等の2種類あることが確認された。8世紀後半の遺物群は今光明庵寺に関連すると想定され、古墳の破壊もこの段階であり、原因は南海地震による地表面変異を整地する目的と推定される。(栗林)

大柿遺跡 大柿遺跡は、吉野川北岸の中洲性微高地上に立地する縄文時代から近世にかけての遺跡である。1996、97年度に四国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され、98年度より整理作業が開始した。今年度は2年目となる。

整理作業は縄文時代、弥生時代、古墳時代前期の遺構、遺物を中心に行った。縄文時代晩期の石器では、石鎌、スクレイバーの他に結晶片岩製石棒が出土している。結晶片岩製石棒は吉野川流域の稻持遺跡、土井遺跡、吉水遺跡、名東遺跡、三谷遺跡からも出土している。特に名東遺跡や三谷遺跡が生産遺跡と推定されている。ただ、吉野川上流域の各遺跡においても未製品が出土していることから、当該地において生産された可能性もある。

(栗林)

矢野遺跡 矢野遺跡は、鮎喰川西岸の微高地上に展開する遺跡である。1993年度より開始されたⅡ群(弥生時代後期後半を中心とした住居跡群)の整理作業を継続すると共に、1993年度以降に発掘された縄文時代後期の遺物の基礎整理作業を実施した。(近藤)



大柿遺跡 出土石棒 (S=1/5)

V 埋蔵文化財センターの活動

(1) 講演会等の開催（於・センター）

期日	内容	講師	参加人数
11 7/14	第1回市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会 「史跡の活用と整備」	奈良国立文化財研究所 平城宮跡発掘調査部長 田辺征夫氏	44名
11 8/3～9/12	1999発掘とくしま 埋蔵文化財速報展		915名
11 8/7	第1回 調査成果報告会 東林院古墳群 高泰遺跡 觀音寺遺跡	研究員 下内新吾 研究員 島田豊彰 研究員 田川 恵	55名
11 8/28	第2回 調査成果報告会 新蔵町1丁目遺跡 敷地遺跡	研究員 高柳孝治 研究員 幸泉満夫	78名
11 11/24	第2回市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会 「地方分権と保護法改正に至るまでの経過」	文化庁記念物課埋蔵文化財部門文化財調査官 小林 克氏	46名

(2) 資料の貸出

No	貸出先機関等	目的	貸出資料	期間
1	オルタスジャパン	NHK BS-1『遺跡発古代ロマン』放映	西長峰遺跡 振立柱建物写真	4/6～4/30
2	朝日新聞社	『古代史発掘 新遺跡カタログ』掲載	觀音寺遺跡 「和歌」等の木簡写真	4/23～9/30
3	徳島市教育委員会	考古資料館企画展示	黒谷川郡頭遺跡 鉄斧他	4/24～7/15
4	徳島県立博物館	『博物館ニュース』掲載	觀音寺遺跡 「和歌」等の木簡写真	5/10～6/30
5	㈱ジャパン通信	『新発見 考古速報展99特集号』掲載	觀音寺遺跡 「和歌」等の木簡写真	5/21～6/30
6	新発見考古速報展実行委員会	新発見考古速報展展示	觀音寺遺跡 木簡（複製品）他	5/31～2/10
7	佐賀県立九州陶磁文化館	「柿右衛門」展示	丈六寺遺跡 色絵桜樹文皿	7/12～11/30
8	徳島市教育委員会	考古資料館企画展示	蓮華谷2号墳 四神形鏡他	7/13～9/10
9	㈱平凡社	『日本歴史地名体系』掲載	觀音寺遺跡 「稅」の木簡写真	7/21～7/30
10	㈱大修館書店	『図説日本の漢字』掲載	觀音寺遺跡 「論語」の木簡写真	7/23～8/31
11	森岡 隆	『仮名発達史における難波津の歌』掲載	觀音寺遺跡・「和歌」の木簡写真	7/29～11/29
12	徳島県統計協会	『徳島県民手帳』掲載	觀音寺遺跡 「和歌」等の木簡写真	7/26～8/26
13	徳島市教育委員会	考古資料館企画展示	新蔵町1丁目遺跡他 しめなわ茶碗	9/3～10/19

14 光文社	「縄文ロマン特集」掲載	矢野遺跡 土製仮面等写真	9/10~11/30
15 徳島県立博物館	新発見考古速報展の地域展示	日吉谷遺跡 ナイフ形石器他	10/12~12/22
16 徳島市教育委員会	考古資料館企画展示	矢野遺跡 絵画土器他	10/15~12/14
17 梅小学校	「全国古代遺跡」掲載	矢野遺跡 土製仮面他	10/30~11/31
18 吉野町教育委員会	吉野町文化祭展示	町口遺跡 青磁碗他	11/2~11/4
19 桑田修館新聞社	「建通新聞」掲載	矢野遺跡 矢野銅鐸写真他	11/15~12/10
20 梅大修館書店	「古代日本の文字世界」	般音寺遺跡 「和歌」等の木簡写真	11/22~1/31
21 吉野町教育委員会2	「同推協だより」掲載	町口遺跡 第1遺構面写真他	12/1~1/31
22 徳島市教育委員会	考古資料館企画展示	中島田遺跡 須恵器甕他	1/11~2/25
23 (財)小谷城郷土館	「焼塙壺の旅」展示	新蔵町1丁目遺跡 烧塙壺他	2/8~4/9
24 梅平凡社	「日本歴史地名大系」掲載	大柿遺跡 堀田写真他	2/21~13/1
25 徳島市教育委員会	考古資料館企画展示	山田A1号墳 耳環他	2/24~4/20

(3) 現地説明会等の開催

No	遺跡名	説 明 内 容	期 日	参加人数
1	敷地遺跡Ⅱ	普及事業 体験見学会	11/8/9	42名
2	末石遺跡	平成11年度調査成果の公表	8/28	160名
3	町口遺跡	〃	10/23	250名
4	敷地遺跡Ⅰ	〃	12/18	170名
5	西州津遺跡	〃	12/2/5	250名
6	中前川町2丁目遺跡	〃	3/18	180名

(4) 主な行政視察（抜粋）

期 日	団 体 名
11/7/23	県議会文教厚生委員会(42名)
9/1	沖縄県教育府文化課(3名)
11/6	今治市役所文化振興課(20名)
12/10	鹿児島県立埋蔵文化財センター(3名)



西州津遺跡 現地説明会風景



中前川2丁目遺跡 現地説明会風景

(5) 平成11年度来館者数

月	開館日数	来館者数				
		一般	高校生	中学生	小学生	計
4	25日	269	4	8	96	377
5	26日	254	5	10	333	602
6	26日	188	155	1	131	475
7	26日	276	1	5	21	303
8	26日	572	10	17	96	695
9	24日	297	3	4	51	355
10	27日	548	2	75	570	1,195
11	24日	359	0	0	311	670
12	22日	141	0	4	27	172
1	22日	112	1	1	24	138
2	24日	268	0	0	31	299
3	27日	204	1	3	97	305
計	299日	3,488	182	128	1,788	5,586

(6) 会議・職員の対外活動等

No	期 間	人 員	内 容
1	11 4／1～	石尾和仁	「歴史の道」調査委員の委嘱
2	4／1～	氏家敏之	藍住町文化財保護審議委員の委嘱
3	4／1～	菅原康夫	徳島市考古資料館資料展示検討委員会委員の委嘱
4	4／1～	菅原康夫	石井町国分尼寺整備検討委員会調査指導の委嘱
5	4／17～4／18	日下正剛	第4回美濃桃山陶器研究会発表（土岐市）
6	5／7	課長1	出土品取扱い会議（岡山市）
7	6／9	課長2 研究員8	「発掘された日本列島'99速報展」展示打ち合わせ（徳島市）
8	6／10	栗林誠治 田川憲	県立辻高等学校 外部講師招へい事業講師（徳島県井川町）
9	6／10～6／12	局長 係長1	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会（山形市）
10	6／18	栗林誠治	県立池田高等学校 外部講師招へい事業講師（徳島県池田町）
11	6／24～6／26	課長1 係長1 研究員1	全埋協コンピュータ等研究委員会（盛岡市）
12	8／1	石尾和仁	徳島城博物館「徳島歴史講座」講師（徳島市）
13	9／8～9／10	課長1・係長1・研究員2	全埋協コンピュータ等研究委員会中四国 九州ブロック地区委員会（北九州市）
14	9／16～9／17	課長1 研究員2	四国埋蔵文化財実務担当者会（東予市）
15	10／6	所長・課長1・係長1 研究員2	収蔵庫等施設調査（坂出市）
16	10／6～10／8	研究員2	全埋協研修会（守山市）
17	10／7	栗林誠治	三好郡広域学習「郷土歴史講座」講師（徳島県三好町）
18	10／19	菅原康夫	三好郡広域学習「郷土歴史講座」講師（徳島県三加茂町）
19	10／20	課長2 研究員10	「発掘された日本列島'99速報展」展示打ち合わせ（徳島市）
20	10／28～10／29	課長1 係長1	全埋協コンピュータ等研究委員会（大阪市）

21	10/28~10/29	局長 課長1 係長 1 研究員1	全理協中四国 九州ブロック会議（倉吉市）
22	10/31	菅原康夫 栗林誠治 藤川智之	「新発見考古速報展発掘された日本列島'99」企画展 調査報告会発表（徳島市）
23	11/2	石尾和仁	三好郡広域学習「郷土歴史講座」講師（徳島県池田町）
24	11/20	石尾和仁	板野郡広域学習講座講師（徳島県板野町）
25	12/11	石尾和仁	徳島県立文書館「文書館歴史講座」講師（徳島市）
26	12/19	課長1 係長1 研究員3	徳島県南環状道路開通記念「道路まつり」調査成果パネル展示説明（徳島市）
27	12/21	菅原康夫	徳島県シルバー大学校特別講座講師（徳島市）
28	12/21	研究員4	徳島県文化財指導者講習会（徳島市）
29	1/29~1/30	日下正剛	江戸遺跡研究会第13回大会発表（東京都）
30	2/12	日下正剛	シンポジウム「焼塙壺の旅—ものの始まり第一」発表（堺市）

刊行物

『徳島県埋蔵文化財センター一年報 VOL. 10 1998年度』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第25集

『マチ遺跡—阿波池田公共職業安定所新築工事に伴う埋文化財発掘調査報告書一』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第26集

『鮎喰遺跡 石井遺跡—徳島県立城西高等学校 名西高等学校施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告一』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第27集

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書14 田上遺跡（I） 田上遺跡（II） 田上遺跡（III）』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第28集

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書15 円通寺遺跡』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第29集

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書16 坊遺跡 須賀遺跡 八幡遺跡 井内遺跡 末遺跡』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第30集

『新蔵町1丁目遺跡 企業局総合管理事務所地点Ⅱ—徳島県企業局総合管理事務建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第31集

『新蔵町3丁目遺跡 徳島保健所地点—徳島保健所改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第32集

『金泉寺遺跡 川端遺跡—中央構造線断層帯調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』

書名	寄贈者等名
安地石道跡 2	福島市教育委員会
上ノ内道跡 4、5、7、8、9	福島市教育委員会
附上川ダム完成式典開催調査報告 書、図、写、図、V	福島市教育委員会
大平・川道跡 2	福島市教育委員会
中谷地 B道跡 台形道跡 (試掘調査)	福島市教育委員会
上ノ内道跡 上ノ古吉跡群	福島市教育委員会
豊原井跡 (試掘調査) 高保道跡 (本調査・試掘調査)	福島市教育委員会
井手井跡 2、3	福島市教育委員会
山ノ道跡	福島市教育委員会
山ノ道跡 2、4	福島市教育委員会
宮地跡 (岡島)	福島市教育委員会
下ノ内道跡 2	福島市教育委員会
下ノ内道跡 西ノ前道跡	福島市教育委員会
岸源跡	福島市教育委員会
宮代跡	福島市教育委員会
城ノ口道跡	福島市教育委員会
城ノ口 C道跡	福島市教育委員会
音浦跡	福島市教育委員会
八幡古墳	福島市教育委員会
宮前道跡 音坊 A道跡 榎ノ守道跡・五十辻道跡	福島市教育委員会
月日 A道跡 (第27回調査)	福島市教育委員会
南ノ内道跡 東土ノ内道跡	福島市教育委員会
京 B道跡 二ツ石道跡 山ノ下道跡 番匠内道跡 古御跡	福島市教育委員会
西ノ前道跡	福島市教育委員会
香取内道跡	福島市教育委員会
喜多井跡	福島市教育委員会
高保道跡	福島市教育委員会
高保道跡 一発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
一松道跡 一発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
野ノ内道跡 (木次水) 山田 C道跡 (第2次)・仁戸内道跡 一発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
野ノ内道跡 2区段発掘報告一	福島県郡山市教育委員会
郡山市埋蔵文化財分布調査報告 5	福島県郡山市教育委員会
音古跡群	福島県郡山市教育委員会
愛川前道跡 一前2次・第6次発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
著志古墳群	福島県郡山市教育委員会
阿久佐道跡	福島県郡山市教育委員会
- 2 3区調査報告一	福島県郡山市教育委員会
大森古墳群	福島県郡山市教育委員会
山ノ林道跡	福島県郡山市教育委員会
山 C道跡 (第3次)	福島県郡山市教育委員会
山ノ内道跡 - 第3次発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
山ノ内道跡 文化財分類調査報告 6	福島県郡山市教育委員会
郡山市埋蔵文化財分類調査報告一	福島県郡山市教育委員会
音古跡群	福島県郡山市教育委員会
大内前道跡 一発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
大内 B道跡	福島県郡山市教育委員会
大内八幡跡 一発掘調査報告一 第1普	福島県郡山市教育委員会
郡山市埋蔵文化財第1次発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
山ノ日照道跡	福島県郡山市教育委員会
南ノ内道跡 7区段発掘報告一	福島県郡山市教育委員会
喜多井跡 7次・第10次発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
喜多井跡 8次・第12次発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
喜多井跡 一発掘調査報告一	福島県郡山市教育委員会
町ノ高坂	福島県郡山市教育委員会
小糸円錐跡	福島県郡山市教育委員会
中田高坂 I区	福島県郡山市教育委員会
猪之瀬跡	福島県郡山市教育委員会
宇宿跡古道跡	福島県郡山市教育委員会
上ノ原塚塚	福島県郡山市教育委員会
通源道跡 一通源道跡部分の調査一	福島県郡山市教育委員会
万古田 A道跡 古代陶工集落 近世居抜跡の調査一	福島県郡山市教育委員会
白石 B道跡 古代陶工集落 小笠跡跡の調査一	福島県郡山市教育委員会
猪敷前井跡 一古代陶器と近世居抜跡の調査一	福島県郡山市教育委員会
渕ノ作道跡	福島県郡山市教育委員会
大場 C道跡 古代墓群 土坑墓の調査一	福島県郡山市教育委員会
野内道跡 詳細分布調査報告書 X、II、V	福島県郡山市教育委員会
岸原道跡	福島県郡山市教育委員会
側原地区発掘調査報告書 I	福島県郡山市教育委員会
平太道跡	福島県郡山市教育委員会
郡山市内道跡発掘調査報告書 4	福島県郡山市教育委員会
田島町 C / N 台跡発掘調査報告書	福島県立博物館
茨 城 県	茨城県教育財團
宮崎崎跡 2	茨城県教育財團
下ノ内道跡 油内道跡	茨城県教育財團
猪の瀬跡	茨城県教育財團
畠田村跡 G・H・I区	茨城県教育財團
中谷津跡 1	茨城県教育財團
六丁台道跡	茨城県教育財團
美和跡 美和寺子道跡 1	茨城県教育財團
東霞ヶ丘跡 斎原寺子道跡 伯乳泉跡	茨城県教育財團
高須町中台跡群	茨城県教育財團
牛山跡 東平道跡 妙ノ上坂群	茨城県教育財團
坂道跡・船戸内道跡 小坂寺道跡	茨城県教育財團
坂田山跡 I区 (下巻)	茨城県教育財團
牛山跡	茨城県教育財團
研究ノート 8号	茨城県教育財團
北浦合田組造成事業地内蔵文化財調査報告書 II、III、V	茨城県教育財團
中根 C三段階跡	茨城県教育財團
完谷 A道跡 足	茨城県教育財團
猪目 A道跡 原古跡群 (1号墳)	茨城県教育財團
長崎古跡群 原代 B道跡	茨城県教育財團
六十石道跡	茨城県教育財團
武田道跡 V	茨城県教育財團
舟久道跡 久保塚群 五万石古道 向原道跡 向原塚群 那原塚 仲丸塚	茨城県教育財團

書名	寄贈者等名
信北Y道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
信北Y道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
下ノ口道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
内原条里／戸森前	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
戸崎前道跡／東郎堂板根跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
八ノ口道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
東町山城跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
私市城武家屋敷跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
御林山道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
西畠田四方田条里道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
西畠田道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
宮ノ口道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
白柳山鹿塚跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
中里原原道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
小村田西／小村田山／開東	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
神田山道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
神田山／神田山道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
真瀬道跡	朝崎玉馬稚藏文化財調査委員会
研究会要 第15号	研究会要 第15号
岡王城埋蔵文化財調査年報 平成10年度	岡王城埋蔵文化財調査委員会
研究会要 第16号	岡王城埋蔵文化財調査委員会
研究会要 第17号	岡王城埋蔵文化財調査委員会
研究会要 第18号	岡王城埋蔵文化財調査委員会
研究会要 第19号、第20号、第21号	岡王城埋蔵文化財調査委員会
岡王城埋蔵文化財調査年報	岡王城埋蔵文化財調査委員会
立正大学教務課 木戸道跡出土品展	立正大学教務課
立正大学教務課研究会年報 X	立正大学教務課
千葉県	千葉県
一般国道409号(木更津工区)埋蔵文化財調査報告書	千葉県
今、古代がおもじり	千葉県
古河市日暮の里遺跡(土官跡) 埋蔵文化財調査報告書	千葉県
成田市大間道跡 大間道岡安報告書	千葉県
研究会要 第5号	千葉県
千葉県文化財センター研究会要 第9号	千葉県
市原市文化財センター会員誌 (平成6年度)、(平成7年度)	市原市
第12回市原市文化財センター道跡発表会要旨	市原市
市原市新川原宿道跡	市原市
吉井市郡大宮跡	吉井市
吉井市郡大通道(第4水)	吉井市
吉井市郡名守道跡(第2水)	吉井市
吉井市 鹿嶋城跡	吉井市
白糸城跡 II	吉井市
市原市大間道開拓古墳	市原市
万葉山東古墳群 II	市原市
吉井市西台道跡	吉井市
フーリルアブツ	吉井市
大船貴賀台(第4・5次)道跡	大船貴賀台
谷内内台櫛道跡	谷内内台
谷内内台櫛道跡	谷内内台
野町台地坂(第2水)	野町台地坂
天王前道跡(第2水)	天王前道跡
山口台跡	山口台
らぼろく道跡	らぼろく
小室山行合道跡(第7次)	小室山行合道跡
野町台地坂文化財センター年報 11, 12, 13, 14	野町台地坂文化財センター
西村御殿跡道跡	西村御殿跡
南西門道跡(第2点)	南西門道跡
宮内井行合道跡 I 地区	宮内井行合道跡
野町台地坂・葛谷津道跡・木戸道跡・鶴山道跡・保越道跡・谷津台道跡	野町台地坂・葛谷津道跡・木戸道跡・鶴山道跡・保越道跡・谷津台道跡
川菜運送群 I	川菜運送群
事業組合 稲	事業組合
伊地山跡	伊地山跡
御宿跡	御宿跡
野川山城道跡群 鳥ノ岡道跡	野川山城道跡群
松内道跡	松内道跡
成田1号墳の調査 植原宮道跡の調査	成田1号墳の調査 植原宮道跡の調査
古屋敷跡	古屋敷跡
千葉県文化財センター 半額No.16, 半額No.17	千葉県文化財センター
野古地跡 II	野古地跡
豊岡古墳	豊岡古墳
千葉県立文津市 君津市夷供郷跡等設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書	千葉県立文津市
高砂道跡 II	高砂道跡
高砂道跡発掘調査報告書 I	高砂道跡
高砂道跡	高砂道跡
山谷谷道跡	山谷谷道跡
西久入下道跡	西久入下道跡
市坂台道跡	市坂台道跡
市坂台道跡	市坂台道跡
足尾道跡	足尾道跡
足尾道跡	足尾道跡
金井和道跡発掘調査報告書	金井和道跡
むかしむかしのきみくらづ	むかしむかしのきみくらづ
体道跡 III	体道跡
日作山道跡 I	日作山道跡
日作山道跡 II	日作山道跡
奥申道跡 (10地点)	奥申道跡
大台の原ナカ道跡	大台の原ナカ道跡
佐尾道跡 II	佐尾道跡
篠山道跡	篠山道跡
上ノア道跡	上ノア道跡
宮崎山道跡 (地図73-1地点)	宮崎山道跡
古屋敷跡	古屋敷跡
松尾山古跡	松尾山古跡
中台木戸道跡 893-5地点	中台木戸道跡

書名	寄贈者等名
古代郊外神社一丁目道路 飛鳥遺跡調査報告書 II	千代田区外神田一丁目道路調査会 東京都北区教育委員会生涯学習部課 東京都北区教育委員会郷土・博物館課事務室 放送第6号道路調査会議
東京都新宿区住吉町道路 市谷町道路 住吉町西道路 III	新宿区住吉町道路調査会議 新宿区住吉町道路調査会議
東京都新宿区筑堤上木橋町道路 II	新宿区住吉町道路調査会議
東京都新宿区谷町王寺町道路 II	新宿区住吉町道路調査会議
東京都新宿区市谷町王寺町道路 V	新宿区住吉町道路調査会議
東京都新宿区北酒井町道路調査世界女性会館地点	新宿区住吉町道路調査会議
東京都新宿区法光寺町	新宿区住吉町道路調査会議
東京都新宿区法光寺町 1丁目道路	新宿区住吉町道路調査会議
せたなみの文化 10	新宿区住吉町道路調査会議
東京都台東区浅草寺西邊跡	台東区教育委員会生涯学習部管理課文化財係
荒川左岸区荒川左岸区調査会員会	台東区文化課調査会
荒川台東区李町道路	台東区教育委員会
荒川台東区二丁目道路	台東区教育委員会
逸舟 V	台東区教育委員会
寒川上越段発掘調査報告書	台東区教育委員会
東京都墨田区油面道路 F 地点	台東区教育委員会
御徒町道路	台東区教育委員会
御徒町道路第2地点	台東区教育委員会
宮之谷戸道路	台東区教育委員会
代継 富士見丘道路	台東区教育委員会
武蔵国府道調査会報告 16 -高食 美好町地域の調査4-	台東区教育委員会
大森山地区発掘の記録	台東区教育委員会
大森山地区西方地帯 丹波院跡周辺に伴う調査報告書	台東区教育委員会
武蔵野市立小山田中学校付近平成11年度武蔵野市立小山田中学校調査報告集 4	府中市立教育委員会
東京都杉並区池田池袋跡 在祥寺町一丁目道路 1点	府中市立教育委員会
東京都杉並区の調査道路 平成10年度 武藏野市埋蔵文化財調査報告集 3	武藏野市立教育委員会
武蔵国分寺跡北地区 日影坂道路 東山道古跡	武藏野市立教育委員会
武蔵国分寺跡北地区 日影坂道路 7	西国分寺市教育委員会
研究記録 5 - 10年	国立歴史学研究所埋蔵文化財調査会
東京大学構築内調査 大学院数理学研究科 II期現地點 発掘調査報告	國立歴史学研究所埋蔵文化財調査会
上野原跡発掘調査報告書	國立歴史学研究所埋蔵文化財調査会
上野原跡発掘調査報告書	東京大学埋蔵文化財調査室
上野原跡発掘調査報告書	上野原跡発掘調査会
上野原跡発掘調査報告書	日の出遺跡調査会
京都市十条田町ノ内一丁目道路	十条久我遺跡調査会
成田御前家下屋敷跡 II	日本国民遺道記念事業団 丸ノ内1-40遺跡調査会
人頭遺跡 1999	東京都立水元SS遺跡調査会
昭久保塚跡 II	東京大学文部省遺跡調査グループ
日影坂道路 No.2249	東京都立水元SS遺跡調査会
江戸と元禄	国立国会図書館
豊島御所裏 第50号	江戸遺跡研究会
豊島横丁式石垣基群発掘調査報告書	宮内省文庫部
大久保 1, 2回	三井記念博物館
豊島横丁式石垣基群	早稲田大学
文学研究科美術 第44講(第1~4分告)	早稲田大学文史会
古代 第109号	早稲田大学文史会
國學院大學 古考古学資料叢書 第15輯	早稲田大学文史会
明治大学博物館図書資料 第1号 1997年度版	明治大学文史会資料室
美術史 第十七号	青山学院大学美学部文史研究室
川口	NHK 学園
豊島史学 第106~108号	駿台書房
神奈川県	
神奈川県考古学	
多摩郡跡	
上野原ノ内一丁目道路 -上野原ノ引向道路(No.11) 上野原ノ引向道路(No.4) 上野原ノ引向道路(No.5) 上野原ノ引向道路(No.6) -36 三ノ宮 -下野原道路(No.12路) 上野原ノ引向道路(No.4) 上野原ノ引向道路(No.5) 下野原道路(No.13)	神奈川県立埋蔵文化財センター
上野原ノ引向道路(No.14)	開かんがわ考古学財団
三ノ宮 -下野原道路(No.14) I -旧石器時代 漢文時代草創期-	開かんがわ考古学財団
新羽町東 6丁目西地区やぐら群	開かんがわ考古学財団
尾根原やぐら群	開かんがわ考古学財団
尾根原やぐら群(No.8) 所在地やぐら群	開かんがわ考古学財団
長野原(No.8) 所在地やぐら群	開かんがわ考古学財団
無葉原やぐら群(No.128)	開かんがわ考古学財団
一升畠道路(No.202) 所在地やぐら群	開かんがわ考古学財団
健軍城(No.87) 所在地やぐら群	開かんがわ考古学財団
野見原やぐら群 けんじが谷筋穴墓群及びやぐら群 高山横穴群 宮地谷やぐら群	開かんがわ考古学財団
白川保育園	開かんがわ考古学財団
他ノ引向道路 起源地	開かんがわ考古学財団
吉岡道路	開かんがわ考古学財団
新百合ヶ丘	開かんがわ考古学財団
狛橋地区発掘調査	開かんがわ考古学財団
年鑑 平成10年度	開かんがわ考古学財団
福岡内二ノ区道路 厚木本郷の旧石器時代	開かんがわ考古学財団
福岡内二ノ区道路 湘上南面厚木本郷石器時代内蔵建設に伴う発掘調査	開かんがわ考古学財団
足利野原跡発掘調査報告書	開かんがわ考古学財団
今川北上跡発掘調査報告書	開かんがわ考古学財団
牛伏古墳跡発掘調査報告書	開かんがわ考古学財団
牛伏古墳跡発掘調査報告書	開かんがわ考古学財団
上ノ原 仁町道路	開かんがわ考古学財団
伊豆川町立埋蔵文化財調査報告書 41	開かんがわ考古学財団
伊豆川町立埋蔵文化財調査報告書 42	開かんがわ考古学財団
大字通原山跡発掘調査報告書	開かんがわ考古学財団
健軍市埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	開かんがわ考古学財団
木更津市立道路調査報告書	開かんがわ考古学財団
西久保町道路	開かんがわ考古学財団
大庭町道路	開かんがわ考古学財団
猪俣文化の保護と活用のための基礎的整理報告書 2	開かんがわ考古学財団
大和町 No.210道路	開かんがわ考古学財団
見附川道路発掘調査報告書 -第3次調査-	開かんがわ考古学財団
安名宮地道路	開かんがわ考古学財団

書名	寄贈者等名
野口シ吉作 (著撰編)	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
尾山川遺跡	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
方丈遺跡	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
北ノ入A遺跡	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
高井田遺跡	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
上品田遺跡 1999	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
研究概要書 - 平成11年度 -	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
鶴岡の原爆でさざなみ発掘調査報告書	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
赤堀ケ谷1号古墳発掘調査報告書	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
令和元年春・夏・秋・冬発掘調査報告書	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
令和元年春・夏・秋・冬発掘調査報告書	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
新井、猪俣分合遺跡調査報告書	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
石ノ船跡	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
坂尻跡	鶴岡市埋蔵文化財調査研究会
はるおか遺跡群 - 見えてきた昔の春岡 -	鶴岡市教育委員会
愛 知 県	鶴岡市埋蔵文化財センター
創愛知県埋蔵文化財センター年報 平成10年度	鶴岡市埋蔵文化財センター
愛知県埋蔵文化財情報 14	鶴岡市埋蔵文化財センター
門戸町遺跡	鶴岡市埋蔵文化財センター
門戸町1号古墳 鴻ノ巣古墳 高卦原1号古墳	鶴岡市埋蔵文化財センター
毛安寺跡	鶴岡市埋蔵文化財センター
馬引切手道跡	鶴岡市埋蔵文化財センター
森岡町1号墳跡群	鶴岡市埋蔵文化財センター
大久保跡	鶴岡市埋蔵文化財センター
三ツ井跡群	鶴岡市埋蔵文化財センター
上品田蟹川遺跡 II	鶴岡市埋蔵文化財センター
平成10年度 濱田市埋蔵文化財センター研究紀要 第7号	鶴岡市埋蔵文化財センター
財団法人愛知県埋蔵文化財センター研究紀要 第7号	鶴岡市埋蔵文化財センター
羽音川遺跡 第7次発掘調査報告書	鶴岡市埋蔵文化財センター
平田城跡 第2次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
名古屋城 第3次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
名古屋城三の丸遺跡 第10次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
第三城跡 第14次発掘の記録	名古屋市教育委員会
豊田市埋蔵文化財センター	名古屋市教育委員会
朝日遺跡 第3、4次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
千子寺遺跡 発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
高畠遺跡第20次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
複数文化財調査報告書 30、32	名古屋市教育委員会
豊田市埋蔵文化財センター発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
高畠遺跡 第10次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
正木町遺跡 第10次発掘調査報告書	名古屋市教育委員会
千石遺跡	名古屋市教育委員会
花本遺跡	名古屋市教育委員会
伊勢原跡 V、VI	豊田市埋蔵文化財センター
鈴山遺跡	豊田市埋蔵文化財センター
柳坪遺跡 VI	豊田市埋蔵文化財センター
一宮の文化財めぐり	豊田市埋蔵文化財センター
平成10年度三つの遺跡調査概要 (1)	豊田市埋蔵文化財センター
豊田市埋蔵文化財センター	豊田市埋蔵文化財センター
吉田城址 (Ⅲ)	豊田市埋蔵文化財センター
豊橋の文化財	豊橋市埋蔵文化財センター
中川遺跡発掘調査報告書	豊橋市埋蔵文化財センター
名古屋市埋蔵考古資料年報 36	豊橋市埋蔵文化財センター
豊橋市埋蔵考古資料年報 36-37・38・39発掘調査の記録	豊橋市埋蔵文化財センター
見崎台遺跡 1985	豊橋市埋蔵文化財センター
名古屋市埋蔵考古資料研究紀要 第1号	豊橋市埋蔵文化財センター
よみがえる瑞蓮落	豊橋市埋蔵文化財センター
らしさの道具 今と昔 -	豊橋市埋蔵文化財センター
豊橋市埋蔵文化財センター	豊橋市埋蔵文化財センター
尾根の児具	豊橋市埋蔵文化財センター
平野のふみに草木す	一宮市教育委員会
一宮市博物館だより	一宮市博物館
千葉県香美郡山田町向山遺跡貝塚の土器	一宮市博物館
九十九里浜遺跡 第1回発掘調査報告書	一宮市博物館
九十九里浜遺跡 第2回発掘調査報告書	一宮市博物館
九十九里浜遺跡 第3回発掘調査報告書	一宮市博物館
九十九里浜遺跡 第4回発掘調査報告書	一宮市博物館
田代山古墳 第1回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第2回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第3回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第4回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第5回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第6回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第7回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第8回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第9回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第10回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第11回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第12回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第13回発掘調査報告書	一宮市博物館
横須賀古墳 第14回発掘調査報告書	一宮市博物館
高島遺跡 第21次発掘調査報告書	一宮市博物館
三 重 県	三重県埋蔵文化財センター
六ヶ所遺跡 (A地区) 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
城之越遺跡 第一期古墳群発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
久七鬼塚跡 日置長浜古墳跡	三重県埋蔵文化財センター
武野町遺跡 発掘調査報告書 II	三重県埋蔵文化財センター
宮ノ瀬遺跡 発掘調査報告書 I	三重県埋蔵文化財センター
田代山古墳 第1回発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
横須賀古墳 第4回 (次) 山ノ口古墳群 (第2回) 発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
立候跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
馬田跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
須崎跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
横須賀ノ田代山遺跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
鷹見跡 発掘調査報告書 II	三重県埋蔵文化財センター
南山ノ奥6号環状遺跡発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
名古屋市埋蔵考古資料 第二名神 我山古墳JCT~油貫塙地埋蔵文化財調査概要 I	三重県埋蔵文化財センター
近畿自動車道名古屋神戸線 (第二名神) 我山古墳JCT~四日市市JCT	三重県埋蔵文化財センター
一般国道475号山南理田白山御前山埋蔵文化財発掘調査概要 V	三重県埋蔵文化財センター
佐久間山遺跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
位田佐藤跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
琵琶湖内遺跡 (第1次) 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
琵琶湖内遺跡 (第2次) 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
緑通遺跡 アカリ遺跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
ゴヨウ山遺跡 発掘調査報告書 (第1次) 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
香呑山遺跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
宮山跡	三重県埋蔵文化財センター
大川上遺跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
安場氏鉾跡 発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
傳引遺跡発掘調査報告書 - 岩井前地区 -	三重県埋蔵文化財センター

書名	寄贈者等名
秀カリ道跡発掘調査報告 平成10年度 三重県埋蔵文化財半報 前田市道跡 第2次調査 小野江高目道跡・小野江古日古墳群発掘調査報告 伊勢道25中勢道跡(第2次)・御薗池北氣道跡発掘調査報告 港ノ道跡 星葉道(第2次)発掘調査報告 一般国道25中勢道跡(30.1K)建設事業に伴う高井A道跡発掘調査報告 天王寺道跡(第1次)・御薗池北氣道跡発掘調査報告 港ノ道跡 星葉道(第3次)発掘調査報告 一般国道25中勢道跡(30.1K)建設事業に伴う高井A道跡発掘調査報告 前田市道跡 第2次調査報告 研究会要 研究会 第8号 ～新立の明治企画文集～ 第19回 三重県埋蔵文化財半報 三重の発掘展 鳥羽市若志町 貝塚古墳発掘調査報告 宮ノ道跡 伊勢道跡 発掘調査報告 港ノ道跡(ノルマ尼跡) 法連寺跡 発掘調査報告 難波川跡(法楽寺地区) 発掘調査報告 奥見川尻遺跡範囲認定調査報告書 清水川跡 発掘調査報告書 岸 一 史跡宮跡 平成10年度発掘調査概報 平成10年度 宮跡史跡博物館年報 歴史史跡地図より 幻の宮 伊勢豈宮 -王朝の折りと皇女たち-	三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 三重県埋蔵文化財センター 津市教育委員会 津市教育委員会 伊勢市教育委員会 小牧町教育委員会 大和町教育委員会 南伊勢町教育委員会 安芸郡教育委員会 越前町教育委員会 越前町埋蔵文化財保護委員会 奈良歴史博物館 奈良歴史博物館 奈良歴史博物館
温賞 儀 カの國の浴器 御所の御所 紀聖 第12号 上ノ道跡 上ノA道跡 木曾道跡 木曾道跡 Ⅲ 佐野山北山町 - 南山田町・木川町 - 飯能山道跡・延徳寺道跡 老母道跡 川ノ口道跡 柴原山道跡 石川山道跡 坂戸道跡 Ⅱ 藤ノ谷道跡 Ⅲ 西河原町内ノ進跡 - I 野の道跡 足利移転発掘調査報告書 Ⅱ (全2分冊) 正之又城跡 西御道跡 発掘調査報告書 妙堂道跡 御崎三又道跡 御崎御跡 御崎御跡 御崎御跡 (事務所名 高木運課) 浜ノ原跡 発掘調査委託報告書 Ⅰ、Ⅲ 室町道跡・宮司道跡 Ⅰ 鶴田道跡 Ⅳ 坂戸道跡 井ノ木道跡 千代道跡 高坂寺道跡 山合寺道跡 難波跡 大将軍道跡 発掘調査委託報告書 北代道跡・神代道跡 平成10年度 三重県埋蔵文化財半報 竹ノ森道跡 上寺地道跡 北極里山道跡 宮司道跡 Ⅱ 鶴田道跡 Ⅴ 北落葉道 伊勢道跡(文財半報)発掘調査委託報告書 1980-1982・1997年度 東郷道跡(文財半報)発掘調査委託報告書 1997年度 1980-1982年度 三重県埋蔵文化財半報調査資料集 昭和南道跡 野瀬道跡 発掘調査委託報告書 平成9年度 中・近畿道跡 発掘調査委託報告書 平成9年度 中・近畿道跡 発掘調査委託報告書 Ⅰ 下長野道跡 発掘調査委託報告書 Ⅴ 宇治文化財半報調査積荷者 第59、66号 二ノ井道跡 発掘調査委託報告書 下長野道跡15次発掘調査委託報告書 伊勢道跡(第2次) 発掘調査委託報告書 伊勢野山道跡 発掘調査委託報告書 吉舟山道跡(第2次) 発掘調査委託報告書 坂戸道跡 発掘調査委託報告書 古保坂道跡(坂戸) 発掘調査委託報告書 高月川道跡 発掘調査委託報告書 高月川道跡 人間文化 7号 貴 郡 府 京都府道跡全般報告 第85、96号 京都府埋蔵文化財半報 第70、71、72、73号 京都府埋蔵文化財半報 第87、88、89、90、91、92号 下長野道跡 京都府道跡 発掘調査委託報告書 小・2次見合 第26、27号 坂戸道跡 第3次 研究会要 第5号 京都府埋蔵文化財調査概要 平成9年度	滋賀県埋蔵文化財保護協会 鈴鹿貴人文化財保護協会 白山市教育委員会事務局文化財保護課 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立大学人間文化学部
	滋賀県埋蔵文化財調査研究センター 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立大学人間文化学部

書名	寄贈者等名
長岡京跡第641次・開拓道路発掘調査報告	長岡京跡第641次・開拓道路発掘調査報告
長岡京跡石京跡第38次・足利通路発掘調査報告	長岡京跡石京跡第38次・足利通路発掘調査報告
長岡京跡石京跡第606大津見通路発掘調査報告	長岡京跡石京跡第606大津見通路発掘調査報告
向日市埋蔵文化財調査報告書 第47、49集	向日市埋蔵文化財調査報告書 第47、49集
京都府内埋蔵文化財調査機関 平成10年度	京都府内埋蔵文化財調査機関 平成10年度
京都府内埋蔵文化財調査各機関 平成10年度	京都府内埋蔵文化財調査各機関 平成10年度
埋蔵文化財発掘調査報告書 1999	埋蔵文化財発掘調査報告書 1999
福山市店舗文化財調査報告書 第37、38集	福山市店舗文化財調査報告書 第37、38集
長岡京市文化財調査報告書 H30前	長岡京市文化財調査報告書 H30前
高井出瓦屋敷現地説明会資料	高井出瓦屋敷現地説明会資料
高寺今通路	高寺今通路
丸山遺跡 第8集	丸山遺跡 第8集
能・洛中桃山陶器の世界	能・洛中桃山陶器の世界
丹波文庫	丹波文庫
同志社大学歴史資料館総報第2号(1998年度)	同志社大学歴史資料館総報第2号(1998年度)
同志社大学歴史資料館発掘調査報告書(遺傳編)	同志社大学歴史資料館発掘調査報告書(遺傳編)
同志社大学歴史資料館発掘調査報告書(年報) 1995年度	同志社大学歴史資料館発掘調査報告書(年報) 1995年度
薬院史学 第25号	薬院史学 第25号
大阪府	大阪府
東大阪市埋蔵文化財調査報告書	東大阪市埋蔵文化財調査報告書
(社)近畿産業連絡会 (SKIT72) ①堺鐵道市街遺跡 (SKIT26) ②長居通路 (NG-26)	(社)近畿産業連絡会 (SKIT72) ①堺鐵道市街遺跡 (SKIT26) ②長居通路 (NG-26)
府都 (国際化公害監視部) 堀川地域の歴史・文化総合調査報告書	府都 (国際化公害監視部) 堀川地域の歴史・文化総合調査報告書
姫守今通路発掘調査報告書	姫守今通路発掘調査報告書
愛宕通路 - (その3-2) 発掘調査報告書	愛宕通路 - (その3-2) 発掘調査報告書
高麗通路	高麗通路
宮の池通路・茨池東側跡・麻田瀬陣跡・茨池南地区 宮池西道跡 1993-1996年度	宮の池通路・茨池東側跡・麻田瀬陣跡・茨池南地区 宮池西道跡 1993-1996年度
小畠通路・箕面市庄北・呂翁所在	小畠通路・箕面市庄北・呂翁所在
中之島通路発掘調査報告書	中之島通路発掘調査報告書
吹田市車場跡	吹田市車場跡
久宝寺通路 - 1 通路区段発掘調査報告書 II	久宝寺通路 - 1 通路区段発掘調査報告書 II
東大阪市通路	東大阪市通路
箕面市下山・呂翁美術在小畠跡	箕面市下山・呂翁美術在小畠跡
中之島通路発掘調査報告書	中之島通路発掘調査報告書
吹田市車場跡	吹田市車場跡
御堂筋小畠跡	御堂筋小畠跡
池島・福万今通路 発掘調査概要	池島・福万今通路 発掘調査概要
箕面市北部地区埋蔵文化財発掘調査報告書	箕面市北部地区埋蔵文化財発掘調査報告書
福島・福万今通路 発掘調査概要 XXV	福島・福万今通路 発掘調査概要 XXV
陶器・瓦器	陶器・瓦器
伏见尾根跡 A 地区	伏见尾根跡 A 地区
玉置通路	玉置通路
尺度通路 I	尺度通路 I
慈心大通路	慈心大通路
年報 平成10年度	年報 平成10年度
調査会員登録 第 2 集	調査会員登録 第 2 集
大阪府埋蔵文化財研究会(第三回、四〇回) 資料	大阪府埋蔵文化財研究会(第三回、四〇回) 資料
大阪市文化財研究 第14、15、16号	大阪市文化財研究 第14、15、16号
OCCH 大阪府通信	OCCH 大阪府通信
発掘あおだに	発掘あおだに
大阪府埋蔵文化財調査会	大阪府埋蔵文化財調査会
大阪府埋蔵文化財調査会東大阪地区発掘調査報告 II	大阪府埋蔵文化財調査会東大阪地区発掘調査報告 II
大阪城城下 B	大阪城城下 B
阿倍野通路発掘調査報告	阿倍野通路発掘調査報告
織工今通路発掘調査報告 I	織工今通路発掘調査報告 I
武藏ノ下通路 発掘調査報告 四	武藏ノ下通路 発掘調査報告 四
大阪府埋蔵文化財発掘調査報告 - 1996、1997年度-	大阪府埋蔵文化財発掘調査報告 - 1996、1997年度-
朝大阪市文化財協会 20年のあゆみ	朝大阪市文化財協会 20年のあゆみ
兵庫県新規発掘調査報告 V	兵庫県新規発掘調査報告 V
山之内通路発掘調査報告 II	山之内通路発掘調査報告 II
御所守通路発掘調査報告 I	御所守通路発掘調査報告 I
御所守通路発掘調査報告 II	御所守通路発掘調査報告 II
御所守通路発掘調査報告 III	御所守通路発掘調査報告 III
大阪府文化財会員会 第2号	大阪府文化財会員会 第2号
大阪の歴史と文化財 第3、4、5号	大阪の歴史と文化財 第3、4、5号
発掘さきた大通 1979-1999	発掘さきた大通 1979-1999
寄附人登録 第2次発掘調査報告	寄附人登録 第2次発掘調査報告
寄附人登録 第3次発掘調査報告	寄附人登録 第3次発掘調査報告 - 1997年度-
弓削山通路 第1次発掘調査報告書	弓削山通路 第1次発掘調査報告書
出當井通路 発掘調査報告書	出當井通路 発掘調査報告書
兔鹿川通路跡 - 2 次発掘調査報告	兔鹿川通路跡 - 2 次発掘調査報告
下小阪通路 第3次発掘調査報告書	下小阪通路 第3次発掘調査報告書
下小阪通路 発掘調査報告書	下小阪通路 発掘調査報告書
ビタ桔梗工事(株)今ノ下通路第10号発掘調査報告書 平成10年度 湖八尾市文化財調査研究会事業報告	ビタ桔梗工事(株)今ノ下通路第10号発掘調査報告書 平成10年度 湖八尾市文化財調査研究会事業報告
財団法人 八尾市文化財調査研究会報告 62、63	財団法人 八尾市文化財調査研究会報告 62、63
枚方市文化財年報 20	枚方市文化財年報 20
伏見通路	伏見通路
平成9、10年度 大阪府内埋蔵文化財包装地発掘調査報告書	平成9、10年度 大阪府内埋蔵文化財包装地発掘調査報告書
高槻市文化財年報 平成9年度	高槻市文化財年報 平成9年度
鶴上通路群 22	鶴上通路群 22
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査報告 1区・2区	泉佐野市埋蔵文化財発掘調査報告 1区・2区
上町通路 97-2区の調査	上町通路 97-2区の調査
宮ノ南通路 97-1区の調査	宮ノ南通路 97-1区の調査
佐佐野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第33、34号	佐佐野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第33、34号
豊中市埋蔵文化財年報 5、6	豊中市埋蔵文化財年報 5、6
文化財ニュース 中	文化財ニュース 中
水走・鬼虎川通路 発掘調査報告	水走・鬼虎川通路 発掘調査報告
河内長野市内埋蔵文化財調査報告書 XV	河内長野市内埋蔵文化財調査報告書 XV
仁深野 No.8	仁深野 No.8
仁深野 No.9	仁深野 No.9
久米田井吹山古墳 - 第1～4次測量概要	久米田井吹山古墳 - 第1～4次測量概要
平成10年度 発掘調査概要	平成10年度 発掘調査概要

書名	寄贈者等名
岸田北遺跡 豊田市立文化財発掘調査報告書 1996年度 昭和市立遺跡発掘調査報告書 1996年度 大垣市立遺跡 御辯遺跡 北条古墳群 四辯遺跡 本 古代たら (製鉄) トカミチ (銅冶) 河内国守 此保寺跡 石室廬跡 面神跡 御佛遺跡 高宮八丁遺跡 II 中神田遺跡 II 高宮八丁遺跡 (大阪府福原市) 東山遺跡 石室古墳群の前に道をなす墳がつくられなくなったのかー 歴史シナジム資料 先代の港—北河内の古時代進化人を考えるー 歴史シナジム資料 わか国最古の牧・北河内の馬刺集団を考えるー 株山遺跡発掘調査報告書 光明寺・羅刹寺子守子発掘報告 足跡・城跡・古墳・古跡・古跡発掘調査報告書 羽根跡・御辯跡・御井跡 御井跡・御辯跡調査を報告書 一平成2、3、7年度ー 穴守跡・御古墳 古市遺跡 XX 阿賀野 野のまちはびの 文化保護のびき 野々上 I、II、III、V、VI 高齢者之鳥越の福寺 御井跡跡発掘調査報告書 I、II 御井跡跡 平成10年度 古市遺跡遺跡発掘調査文化財調査報告書 豊田市立鳥遺跡発掘調査報告書 大野町 (1)御井跡跡 (2)御井跡跡 (3)御井跡跡 (TTC-4) (4)御井跡跡 (SKT702) 平成10年度 豊田市立鳥遺跡発掘調査報告書 七尾川窓跡 (工房跡) 高崎城 遺跡 日野 平成10年度 稲葉文化財緊急発掘調査報告書 野見跡跡発掘調査報告書 平成10年度豊田市立文化財調査を概要 大里町跡発掘調査報告書 豊 シナジム (『最後の1年』のもの始め第一号ー) 移築: その大きなもの、古事記、飛鳥を運ぶー 大垣市立近江飛鳥博物館 制作 4 百舌鳥・吉備・門司遺跡空気球コレクション 奈良文化博覧会研究報告 第3集 新井人置跡 免井跡跡 大阪2000 古時代背景系活動パーソンの比較研究 鶴谷山遺跡発掘調査報告書 関西大学博物館紀念誌 第5号 汗跡 國宝完成の考古学 太田遺跡発掘調査報告書 耳羽遺跡 五日市遺跡発掘調査報告書 堺市立鳥遺跡 鶴井本紀研究 第39号 (1999年4月)	

兵庫県

むかしのカセセリー
ニーロウガ No.38

宮路遺跡発掘調査報告書

中村遺跡発掘調査報告書

北郷郡加古川市美乃利遺跡

先江遺跡発掘調査報告書

南伊丹遺跡

猪名町遺跡

猪名町遺跡 I II

猪名町遺跡

安佐南遺跡

尼崎町遺跡

玉瀬遺跡の浜文化特性と福作起源

高石遺跡発掘調査報告書

有森遺跡 I

平成10年度 年報

平成11年度 要覧

平成12年度 豊岡市立文化財発掘調査報告書

猪名入・松生人—その時代をきた人の表情—

地上に残る神の歴史見取り 百部調査選別

北木遺跡発掘調査報告書 第3次調査ー

丹波篠山文化年報 平成11年度

丹波篠山市立 開興事業に伴う発掘調査

鶴巣原寺跡

播磨原寺跡瓦絆—特別な都城城内出土—

TSUBOKORI 平成6、9年度姫路市埋蔵文化財調査略報

筑前研究会 vol. 8 1998

御井跡跡

同上、人見遺跡発掘調査報告書

上井上土地区埋蔵文化財調査に伴う埋蔵文化財調査の記録

三田城の研究

さんだいのいせき43~45 全巻紙36~44

鶴見市埋蔵文化財センター

兵庫県知事公室企画課

兵庫県教育委員会

書名	寄贈者等名
加古川市道路、高松町古才道跡、立田道路(全3分冊) 岡山県産業文化財報告 29 道山道路、塙地・脚墻 津島道路を探る 鹿児島道路 年齢 津島先生の里 齋6号 有元道路 男戸橋跡 紀元神羅文化財調査報告 福井丸の山原 3丁目 福井貝塚調査報告 第1回「馬山学」シンポジウム 自然科学研究所研究報告 第24号 岡山大学内道路調査委員会昭和15 1997年度	岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会 津島市教育委員会 鶴見町教育委員会 加古川市教育委員会 岡山市立馬山中学校 新潟県佐渡市内陸稲荷田合地造り事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 廿日市町原野 和田原 D 地道調査報告書 研究報告 Ⅹ 年齢 (20)のあゆみ、15 紀元神羅文化財調査報告 研究報告 Ⅹ 吹越城跡発掘調査報告書 Ⅱ 史家安芸守寺跡発掘調査報告書 千葉城跡発掘調査報告書 吹越城跡発掘調査報告書 広島外環状道路 大手町地点 一広島市中区紙町 大手町所在一 尋の古崎跡 一広島市佐伯区北本町所在一 広島城跡 本多正統兵庫所長 足利の歴史 吉元春相跡 広島城跡 尾崎跡 土光山の歴史 尾崎跡ふる 庄成の歴史 尾内跡 堀川古墓 廿日市町原野 2 東北地方重要有形文化財 黒石井家住宅修理工事報告書 新小治川 年齢 第19号 平成9 (1997) 年度一 ひらしまの古代史 寺内廢寺と木切り瓦 道山 木の山なし 一本の建築 文の芸術を作った道山の歴史一 開闢10周年記念 10年のあゆみ 大河内山の歴史 広島大手町分屯地周辺文化財発掘調査年報 豊前 平成10年度古字学教室記録集 ガラスの匂づくり 先生代読観覧
山口県 商野道路(北地区) 吉永道路(北東地区) 大浦(鹿野町・崎古多那) 切通道路 五箇山 黒山道路、N 上岡城跡 大道寺跡 山口の歴史 山口市文化史誌 25、26、27、28、29号 宇部市文化史誌 五島山の歴史と発展伴う発掘調査 山口市立過疎帯分布調査 (大島地区) (岡山地) 上野中央古墓群 下関市立考古博物館 年報4 研究紀要 第3号 平成9年度防災教科書 弁生の聲い 佐伯の歴史 宝篋寺跡 長登城跡 金	山口県産業文化財センター 山口県産業文化財センター 山口県立歴史民俗資料館 山口県立歴史民俗資料館 山口県立歴史民俗資料館 山口県立歴史民俗資料館 山口県立歴史民俗資料館 山口県立歴史民俗資料館 山口県立歴史民俗資料館 山口県立歴史民俗資料館 山口県立歴史民俗資料館 山口市立考古博物館 下関市立考古博物館 下関市立考古博物館 下関市立考古博物館 阿東町教育文化会員会 美東町教育文化会員会
徳島県 第42回 徳島県中学校教育研究大会研究会 平成10年度 高校地盤 説明写真 徳島市埋蔵文化財発掘調査報告 9 阿波国御器發掘調査報告 三好町地図 地図記、大分編 三好町史 地図編 土岐町史 由岐町史 由岐町史 史料編 牟ノ瀬町史 羽ノ瀬町史 石井町史 板茂町史 阿南町史 西祖谷山村史 南高町史	徳島中学校教育研究会 徳島高等専門学校教育研究会 徳島市教育委員会 徳島市立教育委員会 三好町 土岐町史編纂室 由岐町立教育委員会 牟ノ瀬町 羽ノ瀬町 石井町 板茂町立教育研究室 阿南町 西祖谷山村 南高町

徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.11

—平成11（1999）年度—

平成12年6月30日

編集・発行 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2
TEL (088) 672-4545 FAX (088) 672-4550
印 刷 徳島教育出版センター
〒771-0138 徳島市川内町平石流通団地27番地